函　企　国
令和８年(2026 年)１１月６日

総務常任委員会委員　各位

企　画　部　長

「南北海道連携中枢都市圏ビジョン（素案)」の配付および
パブリックコメント（意見公募）手続の実施について

このことについて，本市は，連携中枢都市として，人口減少・少子高齢社会にあっても一定の圏域人口を有し，活力ある社会経済を維持するための拠点となる「南北海道連携中枢都市圏」の形成を目指しているところです。

このたび，圏域の将来像を示すとともに，その実現に向けて関係自治体が連携して推進する具体的な取組を明らかにするため，「南北海道連携中枢都市圏ビジョン」を策定することとし，別添のとおり素案を取りまとめましたので，配付いたします。

また，下記のとおりパブリックコメント（意見公募）手続を実施いたします。

記

１　配付資料

・　南北海道連携中枢都市圏ビジョン（素案）の概要
・　南北海道連携中枢都市圏ビジョン（素案）

２　パブリックコメント（意見公募）実施期間
令和８年（２０２６年）１１月１０日（火）～１２月２８日（月）

３　結果公表の予定時期
令和９年（２０２７年）１月中旬

（企画部国際・地域交流課）

南北海道連携中枢都市圏ビジョン（素案）の概要

令和８年（2026年）11月
企画部国際・地域交流課

１．ビジョンの概要

ビジョンについて	
圏域名称	南北海道連携中枢都市圏
ビジョン名称	南北海道連携中枢都市圏ビジョン
連携中枢都市	函館市
構成市町	渡島および檜山管内２市１６町 （函館市，北斗市，松前町，福島町，知内町，木古内町，七飯町，鹿部町，森町，八雲町，長万部町，江差町，上ノ国町，厚沢部町，乙部町，奥尻町，今金町，せたな町）
取組期間	令和9年(2027年）4月1日 ～令和14年(2032年)3月31日
策定の趣旨	進行する人口減少・少子高齢化に対応するため，「南北海道定住自立圏」の連携をさらに強化し，活力ある社会経済を維持するための拠点として連携中枢都市圏を形成する。

２．圏域の現状

圏域の現状と主な課題	
人口・社会動態	・人口減少と高齢化が進行 ・社人研（令和5年推計）によると，令和2年(2020年)413,767人が，令和32年(2050年)には238,638人に減少する見込み ・若年層の圏域外流出や自然減が顕著
産業・経済	・1次・2次産業の割合が北海道全体と比較してやや高い。 ・農林水産業では担い手の高齢化や主要魚種の漁獲低迷が課題となる一方，洋上風力発電などのGX推進や広域観光（年間宿泊客延数1,000万人泊）の発展可能性を有している。
都市機能・医療	・中核市である函館市に高度医療，高等教育，行政・商業機能が集積 ・周辺地域救急搬送体制の維持や，地域による医師偏在の解消が求められる。
交通・インフラ	・新幹線，空港，港湾，高規格道路等の広域交通網を有する。 ・一方，地方部の公共交通の維持が厳しさを増しており，デマンド交通等の活用や効率的な交通ネットワーク構築が必要とされている。

３．圏域の中長期的な将来像

圏域の将来像

訪れたい，働きたい，住みたい　南北海道
～世界から選ばれ，安心して暮らせる地域を目指して～

・各市町の魅力・可能性を掛け合わせ，多様な資源の価値を向上
・圏域全体の暮らしと持続可能な経済の実現
・函館市をヒト・モノ・産業が集積する拠点として強化

人口の将来展望

区分	圏域内人口	高齢化率
平成22年(2010年)　国勢調査	469,865人	28.1%
平成27年(2015年)　国勢調査	442,668人	32.8%
令和２年(2020年)　国勢調査	413,767人	36.6%
令和７年(2025年)　国勢調査	378,168人	38.4%
令和22年(2040年)　【目標】	**320,000人**	**40.0%**

４．具体的取組

ア　圏域全体の経済成長のけん引

1．GXの推進
2．GX関連人材の育成支援等
3．地域におけるデジタル人材の育成
4．広域観光の推進
5．外国人観光客受入体制の整備

イ　高次の都市機能の集積・強化

6．高度で幅広い知識や技術を有する看護師の育成に向けた取組み
7．看護師の派遣
8．函館港における物流拠点の整備
9．地域を支える人材の育成・確保

ウ　圏域全体の生活関連機能サービスの向上

10．夜間急病センターの運営支援
11．ドクターヘリの運航支援
12．二次救急医療体制の維持・確保
13．脳疾患救急搬送体制の運営支援
14．医療情報共有化の推進
15．救急救命士病院実習の実施
16．理学療法士および作業療法士の養成支援
17．医療・介護連携の推進
18．障害者地域生活支援事業の推進
19．文化・スポーツ施設の相互利用の推進
20．販路開拓支援
21．創業支援の推進
22．先進技術の開発・利用促進および高度技術の普及支援
23．第三セクター鉄道への支援
24．生活バス路線の維持・確保
25．JR函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保
26．交通インフラの整備に係る期成会活動の促進
27．国際交流・多文化共生の推進
28．移住・定住の促進
29．消費生活相談の広域的対応
30．職員研修に係る情報共有および合同研修の実施
31．高等教育機関との連携による地域マネジメント能力の向上
32．AI・DXの推進等による行政運営の効率化

（ 素 案 ）

南北海道連携中枢都市圏ビジョン

２０２７－２０３１



令和　年　月

函館市

目次

第１章　ビジョンの概要.....3
１　策定の趣旨.....3
２　連携中枢都市圏の名称と構成市町.....4
（1）連携中枢都市圏の名称.....4
（2）構成市町の名称.....4
（3）取組の期間.....5
第２章　圏域の現状.....6
１　圏域の概況.....6
２　構成市町の概況.....7
（1）函館市.....7
（2）北斗市.....7
（3）松前町.....8
（4）福島町.....8
（5）知内町.....9
（6）木古内町.....9
（7）七飯町.....10
（8）鹿部町.....10
（9）森町.....11
（10）八雲町.....11
（11）長万部町.....12
（12）江差町.....12
（13）上ノ国町.....13
（14）厚沢部町.....13
（15）乙部町.....14
（16）奥尻町.....14
（17）今金町.....15
（18）せたな町.....15
３　人口.....16
（1）人口の推移.....16
（2）年齢別人口の推移.....16
（3）人口動態の推移.....17
４　都市機能の集積状況.....19
（1）行政機関.....19
（2）医療.....21

(3) 教育・文化・スポーツ・観光 23
5　経済・産業等の状況 28
経済・産業の構造 28
(1) 農業 31
(2) 水産業 31
(3) 林業・木材産業 31
(4) 商工業 32
(5) ＧＸ関連産業 32
(6) 観光 33
(7) 社会福祉 34
(8) 保健・医療 34
(9) 教育・文化 35
(10) 交通・運輸 35
(11) 防災・消防 36
(12) 国際交流 36
第３章 圏域の中長期的な将来像 38
1　圏域が目指す将来像 38
(1) 圏域の将来像 38
(2) 人口の将来展望 39
(3) 推進体制 40
第４章 具体的取組 41
1　圏域全体の経済成長のけん引 42
2　高次の都市機能の集積・強化 47
3　圏域全体の生活関連機能サービスの向上 51

第１章 ビジョンの概要

１　策定の趣旨

我が国は本格的な人口減少・少子高齢社会を迎えており，国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計によると，今後も高齢化率の大幅な上昇が見込まれています。

また，都市への人口集中により，地方では住民が快適に安心して暮らしていくための生活基盤の維持が難しくなり，行政サービスを持続的に提供していくことが困難になることが懸念されています。加えて，激甚化・頻発化する自然災害への対応やデジタル化の進展，脱炭素社会の実現に向けた取組など，地方自治体を取り巻く環境は大きく変容しています。

渡島・檜山管内の函館市，北斗市，松前町，福島町，知内町，木古内町，七飯町，鹿部町，森町，八雲町，長万部町，江差町，上ノ国町，厚沢部町，乙部町，奥尻町，今金町およびせたな町の 2 市 16 町から形成される南北海道圏域では，平成 26 年（2014 年）3 月に「南北海道定住自立圏」に係る協定を締結し，これまで約 13 年間にわたり，圏域市町が緊密に連携・協力してきました。この間，医療，福祉，観光，地域公共交通など幅広い分野で広域的な取組を推進し，定住の受け皿として必要な生活機能の確保や交流人口の拡大を図りながら，「安心と交流でつながる南北海道」の実現を目指してきましたが，依然として人口減少・少子高齢化が進んでいます。

その一方で，令和 7 年（2025 年）に，圏域内の海域である「北海道松前沖」および「北海道檜山沖」が再エネ海域利用法に基づく「促進区域」に指定されるなど，ＧＸ※推進の動きが加速しつつあり，また，同年には，令和 15 年度（2033 年度）までに年間宿泊客延数 1,000 万人泊達成を目指すための広域観光圏の形成に関する決議を行うなど，本圏域における産業経済は，今後さらなる発展の可能性を秘めていると言えます。

本圏域が持続可能な経済基盤を確立していくためには，これまでの定住自立圏で形成されてきた強固な信頼関係を礎としながら，圏域内の地域資源を最大限に活用し，連携を一層深化・発展させていくことが求められます。そのため，新たに「南北海道連携中枢都市圏」を形成し，「圏域全体の経済成長のけん引」，「高次の都市機能の集積・強化」および「生活関連機能サービスの向上」を図りながら，人口減少・少子高齢社会にあっても一定の圏域人口を有し，活力ある社会経済を維持するための拠点となることを目指します。

本ビジョンは，これまで培ってきた緊密な連携を基盤として，各市町が互いの魅力や可能性を掛け合わせ，支え合いながら，圏域一体としての価値を高め，暮らしと経済を持続させていくため，本圏域が目指すべき中長期的な将来像を示すとともに，その実現に向け，相互の役割分担のもとで推進していく具体的な取組を定めるものです。

※　ＧＸ（グリーントランスフォーメーション）：温室効果ガス排出削減と経済成長の両立を目指し，化石燃料中心の産業構造から，再生可能エネルギーを中心とした構造へ転換する取組。

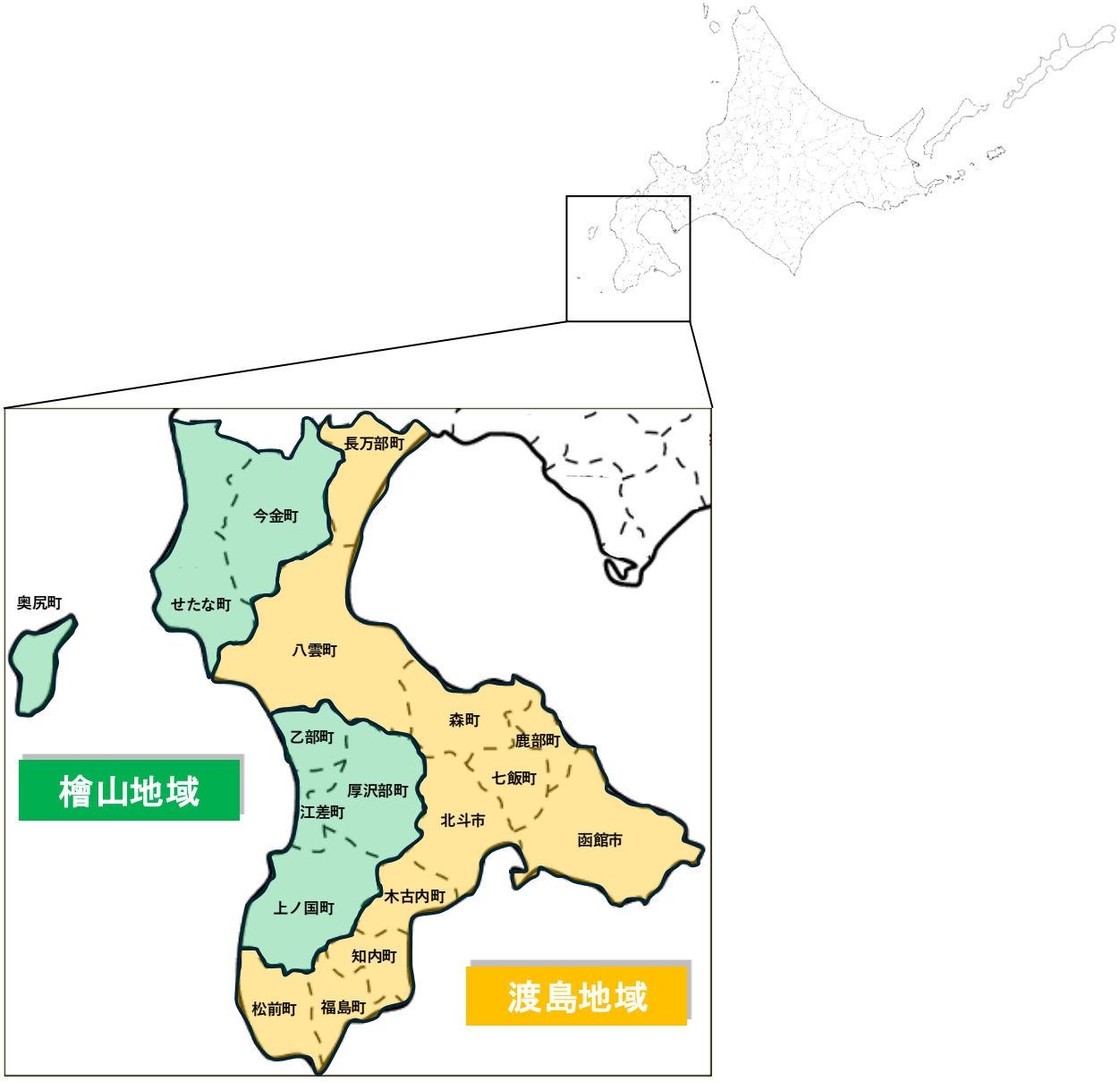
2　連携中枢都市圏の名称と構成市町

(1) 連携中枢都市圏の名称

南北海道連携中枢都市圏

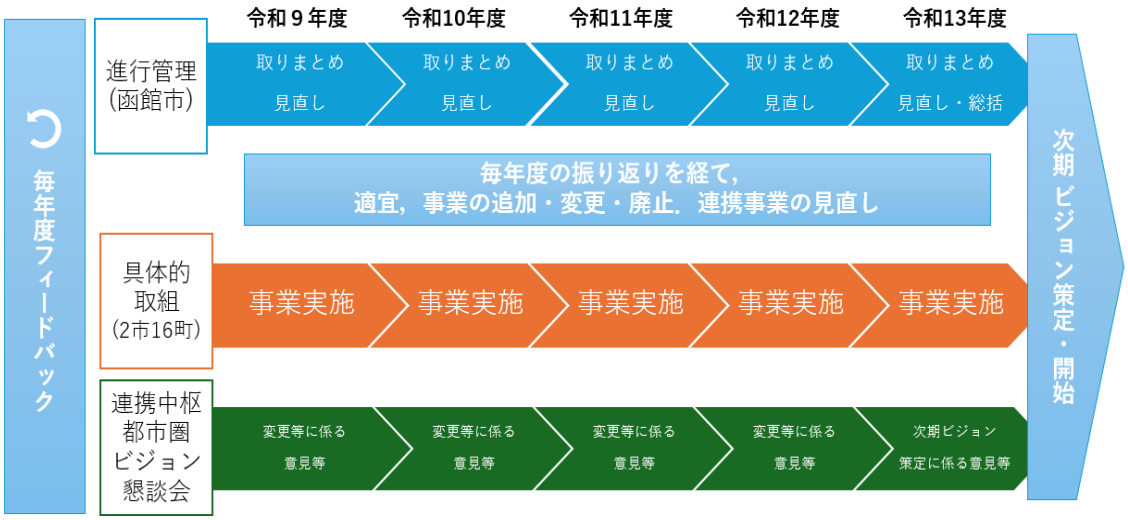
(2) 構成市町の名称

函館市（連携中枢都市），北斗市，松前町，福島町，知内町，木古内町，七飯町，鹿部町，森町，八雲町，長万部町，江差町，上ノ国町，厚沢部町，乙部町，奥尻町，今金町，せたな町



(3) 取組の期間

令和９年（２０２７年）４月１日から
令和１４年（２０３２年）３月３１日までの５年間



第２章 圏域の現状

１　圏域の概況

本圏域は，北海道の南西部に位置する渡島半島と奥尻島を区域とし，渡島管内 11 市町と檜山管内 7 町の全 18 市町で構成されています。総面積は約 6,567km²で，北海道全体の約 8%を占めています。

太平洋，日本海および津軽海峡に面した本圏域は，海岸部には砂浜や断崖，奇岩など，地域ごとに変化に富んだ地形が見られます。また，内陸部には山地や湖沼，温泉，良好な水質を有する河川などがあり，豊かな自然環境に恵まれています。三方を海に囲まれ，海洋の影響を受けることから，北海道内では比較的温暖な地域となっています。

歴史的には，垣ノ島遺跡や大船遺跡をはじめ，縄文時代から人々が暮らしてきたことを示す遺跡が数多く残されています。中世には，沿岸部を中心に和人の居住や交易の拠点が形成され，江戸時代には，松前に城下町が形成されたほか，江差や函館が北前船などによる海運や本州との交易の拠点として栄えました。幕末には，函館が国際貿易港として開港し，明治初期には戊辰戦争の最終局面である箱館戦争の舞台となるなど，北海道と本州を結ぶ地域として発展してきました。

現在においても，南北海道唯一の中核市である函館市と渡島・檜山管内の各連携市町とは，住民の通勤・通学や買物といった日常生活における深い結びつきがあり，特に医療面においては，市立函館病院が三次救急医療やドクターヘリの基地病院として，圏域全体の命を守る広域ネットワークの中核的な役割を担うなど，圏域住民の安全と安心を支える強固な連携基盤が形成されています。

2　構成市町の概況

(1) 函館市



特産品：
スルメイカ，函館真昆布，
ブリ，根ぼっけ，ごっこ

函館市は，津軽海峡に面した北海道の南端部に位置し，三方を海に囲まれ，函館山を要として扇状に広がる市街地を形成しています。早くから陸・海・空の交通の要衝となり，国内外からの玄関口として，行政・経済・文化の中核都市としての役割を担ってきました。

市民一人ひとりが「安全・安心で，幸せを実感できるまち」，「魅力にあふれ，活力ある産業のまち」を目指し，「ウェルビーイング（市民の幸福度）の向上」に向け，まちづくりを推進しています。

(2) 北斗市



特産品：
ふっくりんこ，トマト，長ネギ，
ホッキ貝，海峡わかめ，
袰朗カキ

北斗市は，平成 18 年（2006 年）2 月，肥沃な大地と温暖な気候に恵まれ，漁業，農業，商工業を中心として発展してきた旧上磯町と旧大野町が合併し，道内 35 番目の市として誕生しました。渡島管内中部に位置し，南東部は大野平野，西部は渡島山地，南部は函館湾に面しています。

テクノポリス函館の一員として，積極的な企業誘致を推進し，一次産業と商工業のバランスがとれたまちを目指して発展してきました。現在は，北海道新幹線新函館北斗駅のまちとして，北海道の玄関口，道南の交通拠点として開業効果が広く道南全域に及ぶよう様々なまちづくりを推進しています。

(3) 松前町



特産品：
マグロ，アワビ，岩のり，
松前漬け，ヤリイカ，サザエ

松前町は，渡島半島西南端に位置し，西は日本海，南は津軽海峡に面し狭隘な海岸線に沿って国道228号が走り，これを中心に集落が形成されています。

春には，松前公園一帯に，早咲きから遅咲きまで約1か月間，250種，1万本の桜が咲き誇り，観光客の目を和ませてくれます。

江戸時代の名残を伝えるお城と街並み，松前沖で獲れる極上の本マグロと海産物など，現在は，豊かな食と歴史文化など松前の魅力アップを目指し，郷土愛と誇りの持てる住みよい協働のまちづくりを推進しています。

(4) 福島町



特産品：
昆布，マグロ，スルメ，アワビ，
黒米，横綱椎茸，千軒そば

福島町は，津軽海峡に面した北海道の南端に位置し，秀峰大千軒岳や変化に富んだ道南の知床と呼ばれる秘境の海岸線など，豊かな自然に恵まれています。

基幹産業は水産業で，昆布養殖等資源管理型漁業の推進によって，安定生産の拡大と付加価値向上を進めています。

現在は，地域の宝である子どもの子育てを地域全体で支援するための各種施策のほか，農林水産業の担い手支援事業など，「住んでいて良かった」，「これからも住み続けたい」，「住んでみたい」と思えるまちづくりを推進しています。

(5) 知内町



特産品：
知内にら「北の華」,
知内まこがれい，知内かき,
特別栽培米「ゆきさやか」

知内町は，青函トンネル北海道側出入口のまちです。甘さ・やわらかさで人気を博している「知内ニラ」は年間販売額 15 億円を超える北海道を代表するブランドです。

また，津軽海峡の荒波にもまれて育つ「知内かき」は大きくて身が締まっているのが特徴。厳冬期に共に旬を迎える特産品を使った食のイベント「味な合戦冬の陣（カキ VS ニラまつり）」には，遠く札幌市からも大勢の来訪者をお迎えしています。他にホウレン草，トマト，マコガレイ，ホタテなど安全・安心でおいしい特産品づくりも自慢です。

さらに，町の 8 割を森林が占めこれまで利用が進まなかった未利用材等の地域資源を有効に活用して役場庁舎や温水プールの熱源として利用する「木質バイオマスエネルギー」活用の取組をはじめ，「地材地消」のまちづくりを推進しています。

(6) 木古内町



特産品：
特別純米酒・純米酒
「みそぎの舞」，はこだて和牛，
ほたて炙り丼，みそぎの塩，
海峡ひじき

木古内町は，北海道の南西部に位置し，道南杉に覆われた森を背景に，津軽海峡に面した自然豊かなまちです。昔から交通の要衝として栄えており，函館市・松前町・江差町へ向かう分岐点となっています。また，平成 28 年（2016 年）3 月の北海道新幹線開業時には北海道最初の駅が設置されました。

現在は，北海道新幹線木古内駅開業を契機とした道南地域経済の活性化など，将来を見据え様々な施策を展開しながら，「道南を未来へつなぐハブタウン木古内」を目指したまちづくりを推進しています。

(7) 七飯町



特産品：
はこだて大沼牛・
はこだて大沼黒牛，
ワカサギ，じゅんさい，
王様しいたけ，りんご，
カーネーション，地ビール，
ガラナ飲料，乳製品，
きびだんご・だんご

七飯町は，渡島半島南部に位置し，函館市の北側に隣接しています。

函館港の開港に併せ，明治時代には国の農業試験場である勧業試験場なども建設された北海道開拓の基礎となる西洋農法発祥の地であり，西洋りんごや男爵いもが日本で初めて栽培されました。

また，日本新三景の一つである大沼国定公園が平成 24 年（2012 年）7 月にラムサール条約登録湿地となるなど，豊かな自然に恵まれ四季折々姿を変化させる壮大な景色は来る人を楽しませます。

現在は，北海道新幹線総合車両基地のまちとして，魅力的で活気が溢れるまちづくりを推進しています。

(8) 鹿部町



特産品：
白口浜こんぶ，タラコ，ホッケ

鹿部町は，渡島半島の東部にあり，駒ヶ岳山麓の一角に位置し，北東に太平洋内浦湾を望み，南東は函館市に，北西は森町に，南西は七飯町と接しています。

町内には，温泉も多く 30 か所以上の泉源があり，全国でも珍しい間歇泉のある町です。

現在は，“きらめく海・駒ヶ岳うるおいの湯郷”をめざすまちの姿に掲げ，「生きる力を育み，だれもが学べるまち」，「ともに支えあい，健やかに安心して暮らせるまち」，「安心して住み続けられるまち」，「自然と安全を守り続けるまち」，「地域の魅力を活力にかえるまち」，「みんなで知恵と力を出し合い挑戦するまち」を基本目標としてまちづくりを推進しています。

(9) 森町



特産品：
かぼちゃ，とうもろこし，
タラ，ホタテ，いかめし，
ひこま豚

森町は，渡島半島南東部に位置し，北は噴火湾に臨み，東に北海道駒ヶ岳がそびえています。

昭和 4 年（1929 年）の駒ヶ岳大噴火，昭和 36 年（1961 年）の森町大火などの災害から力強く復興をとげ，駒ヶ岳山麓開発，濁川地熱開発，ホタテ養殖，港湾，漁港，道の駅や北海道縦貫自動車道開通，教育や福祉の充実などの取組を進め，平成 17 年（2005 年）4 月 1 日に旧森町と旧砂原町が合併し，新「森町」となりました。

現在は，自然エネルギーの活用や災害に強い「まち」・地場資源を活用した「まち」など，全ての町民が，安心して暮らせることができるまちづくりを推進しています。

(10) 八雲町



特産品：
ホタテ，さくらかれい，
風の子もち，北里八雲牛，
サケ

八雲町は，渡島半島のほぼ中央部に位置しています。東は太平洋，西は日本海に面しており，日本の市町村としては唯一，2 つの海に面する町です。札幌市と函館市を結ぶ主要幹線上に位置し，北海道新幹線の新八雲（仮称）駅の設置が予定されています。農業は酪農を中心に水田・畑作，漁業は噴火湾ではホタテの養殖，日本海ではサーモンの養殖が中心となっています。

近年は，酪農研修牧場やメガファームなどの導入，北海道二海サーモンの海面養殖事業やブランド化など，地域の活性化にも力を入れています。

(11) 長万部町



特産品：
毛がに，ホタテ，ホッキ，
かにめし，ミニトマト

長万部町は，渡島半島内浦湾の最奥部に位置し，平地は湾に沿って南北に帯状に分布し，長万部川，紋別川，国縫川流域に平坦で肥よくな農耕地を有しています。また，北海道内では比較的雪の少ない温暖な気候です。

古くから北海道の南北を結ぶ主要経路地であり，江戸期のアイヌ社会，松前藩双方にとって地政学的に極めて重要な地であったことから，寛文 9 年（1669 年），シャクシャインの戦いの主戦場となりました。現在では，道央と道南を結ぶ交通の要衝として重要な地点に位置しています。

将来，北海道新幹線長万部駅の開業が予定され，これからも道南北部の交通の要衝である本町は，内浦湾沿岸の中間地点，北海道行政圏境地域として，21 世紀の交通拠点都市を目指しています。

(12) 江差町



特産品：
紅ズワイガニ，アスパラ，ウニ，
米，トラウトサーモン，
五勝手屋羊羹，
ニシンそば，追分こうれん，

江差町は，北海道の南西部に位置し，北海道文化発祥の地といわれ，北前船交易によりもたらされた江差追分などの伝統芸能や生活文化が数多く伝承されています。

江戸期のニシン漁最盛期で栄えた町「江差」の街並みを再現した「いにしえ街道」や当時の問屋建築のまま残されている「旧中村家」，江差追分の実演が見学できる「江差追分会館」や町のシンボルである「かもめ島」など観光施設や町歩きにも魅力のある町です。平成 29 年（2017 年）4 月には，「江差の五月は江戸にもない－ニシンの繁栄が息づく町－」として北海道で初の『日本遺産』に認定されています。

現在は，住民一人ひとりが主役となる「自分たちごとのまちづくり」を通して，「誇りある暮らしを未来へ紡いでいく」ことを目指し，まちづくりを推進しています。

(13) 上ノ国町



特産品：
サヤエンドウ，アスパラガス，
ヒラメ，アワビ，上ノ国ワイン，
ブラックシリカ

上ノ国町は，檜山振興局管内の最南端に位置し，北部を流れる天の川流域に市街地と農業集落，日本海沿岸に漁業集落を形成しています。

古くは日本海北方交易の拠点として繁栄したことから，北海道最古の寺院・民家など多数の歴史的遺産を有しています。

現在は，『みんなで創る誇れるふるさと上ノ国』を基本テーマとし，住民と行政が一体となって，「誰もが活躍できる活力あるまちづくり」，「元気とあたたかさに満ちたまちづくり」，「協働による持続可能なまちづくり」を推進しています。

(14) 厚沢部町



特産品：
あっさぶメークイン，
グリーンアスパラ，米，
さぶりメロン，
本格焼酎「喜多里」

厚沢部町は，渡島半島の日本海側，檜山管内に位置し，三方を森林に囲まれ，清流厚沢部川をはじめとする河川流域に水田，丘陵地帯に畑地が拓けた農林業を基幹産業とする町です。

メークイン発祥の地として古くから農業の営みが続けられてきた厚沢部町では，安全で良質な農産物づくりに取り組んでいます。

現在は，移住交流事業などに積極的に取り組みながら，安全で安心して暮らせる「素敵な過疎のまち」を目指したまちづくりを推進しています。

(15) 乙部町



特産品：
黒千石大豆，
ナマコ（乾燥），蜂蜜，
グリーンアスパラ，
食用ゆり根，ゆり最中，
クラフトビール

乙部町は，北海道南西部の日本海に面した町で，美しい海岸線と岬に沿って集落が続く農漁業が中心の町です。バリアフリー化し，どなたでも安心・安全に利用できる「海のプール」や縁結びの神が宿ると言われる連理の木「縁桂」，雄大な姿を見せる「シラフラ」「館の岬」「鮪の岬」などが観光の柱。

また，歴史的には箱館戦争時の新政府軍（官軍）上陸の地として知られています。

現在は，産業振興や福祉の充実，防災対策など各般にわたり取り組むなど，持続的な発展と町民のくらしを守る，安全・安心なまちづくりを推進しています。

(16) 奥尻町



特産品：
ウニ，アワビ，イカ，
おくしり和牛，奥尻ワイン

奥尻町は，北海道南西部の日本海上に浮かぶ島で，北海道では 2 番目に面積の広い島です。島の面積の約 7 割がブナをはじめとする森林で覆われ，離島では珍しい米作りをはじめ，アスパラ，奥尻和牛，奥尻ワイン等の山の幸，そして豊富な海の幸など島ブランドが溢れています。

現在は，おくしりまるごと祭りなど各種行事や島ブランドを生かした観光客の誘致やＰＲに取組ながら，島ならではのゆったりとした時間の流れである「島じかん」を通じ，暮らす人も，訪れる人も笑顔あふれるまちづくりを推進しています。

(17) 今金町



特産品：
今金男しゃく，今金米，
軟白長ねぎ，ミニトマト

今金町は，北海道南西部の檜山管内北部にある町で，総面積の約 8 割を山林が占めており，「水質が最も良好な河川」に全国最多選出されている一級河川「後志利別川」が流れている，人口約 5,100 人の自然豊かなまちです。明治 30 年（1897 年）に瀬棚村（現：せたな町）から分村して「利別村」として自治制を施行して以来，道南圏随一の「農業のまち」として発展し，品質の高い農産物，特に全国ブランド「今金男しゃく」の産地として知られています。

現在は，子育て支援，福祉の充実などに積極的に取り組みながら，「安全・安心な暮らしが保障され，輝く地域人・力強い地域産業を育てるまち・今金」を目指し，まちづくりを推進しています。

(18) せたな町



特産品：
米，せたな男爵，
ブロッコリー，
スナップエンドウ，
若松ポーク，サフォーク，
あわび，ひらめ，ほたて貝，
瀬棚のり

せたな町は，平成 17 年（2005 年）9 月 1 日に旧大成町・瀬棚町・北檜山町が合併して誕生したまちです。農業・畜産業・水産業が盛んで，まちの中心部には清流日本一の一級河川後志利別川が流れています。

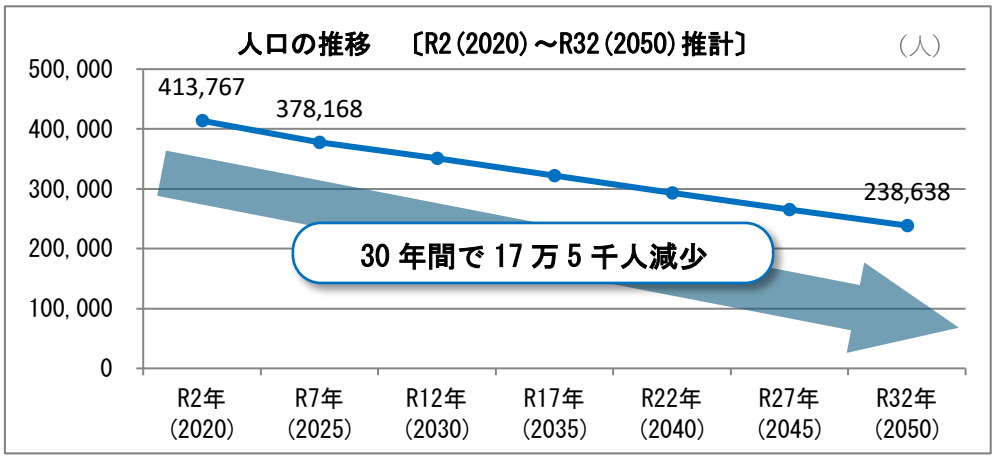
豊かで美しい自然と山海の幸，自然と笑顔があふれるふれあいの理想郷。色とりどりの四季，純朴な人々，穏やかに刻む時間。都会の喧騒から開放され癒される時間を過ごすことができます。

現在は，将来に向かっての更なる飛躍と一層の一体感の醸成を目指し，町民からの提案を広く取り入れた協働によるまちづくりを推進しています。

3　人口

(1) 人口の推移

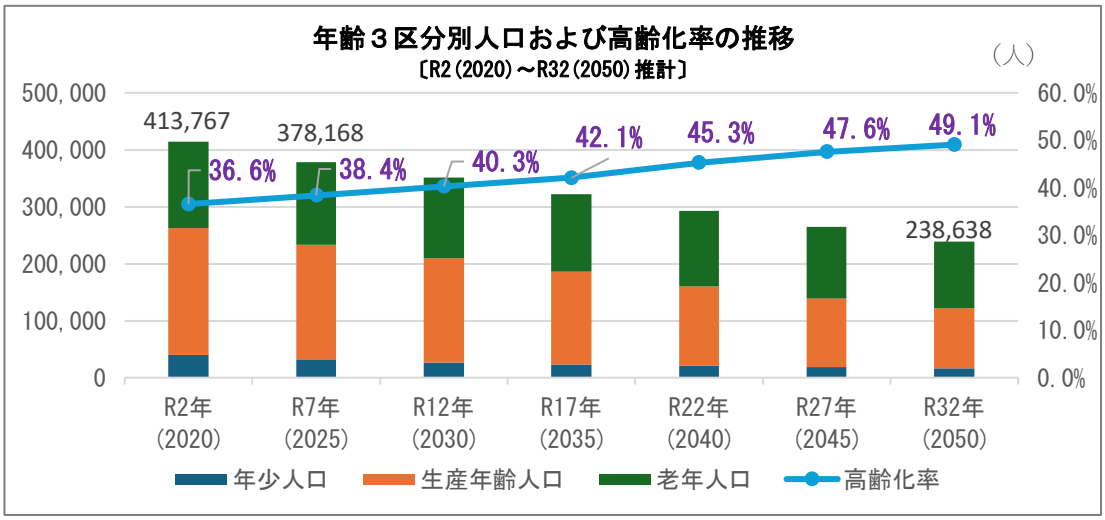
本圏域の人口は，減少傾向にあり，令和２年（2020 年）と令和７年（2025 年）の国勢調査結果での比較において，35,599 人減少（8.6%減）しています。また，国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の地域別将来推計人口(令和５年推計)」によれば，令和２年（2020 年)に 413,767 人だった本圏域の人口は，30 年後の令和 32 年(2050 年)には 238,638 人に減少（42.3%減）することが見込まれるなど，人口減少による地域コミュニティの維持や地域経済の衰退が大きな課題となっています。



資料：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2023)

(2) 年齢別人口の推移

人口減少が続く中において，老年人口の増加と生産年齢人口の大幅な減少が見込まれており，関係人口の拡大など，地域経済を維持させるための取組が急務となっています。

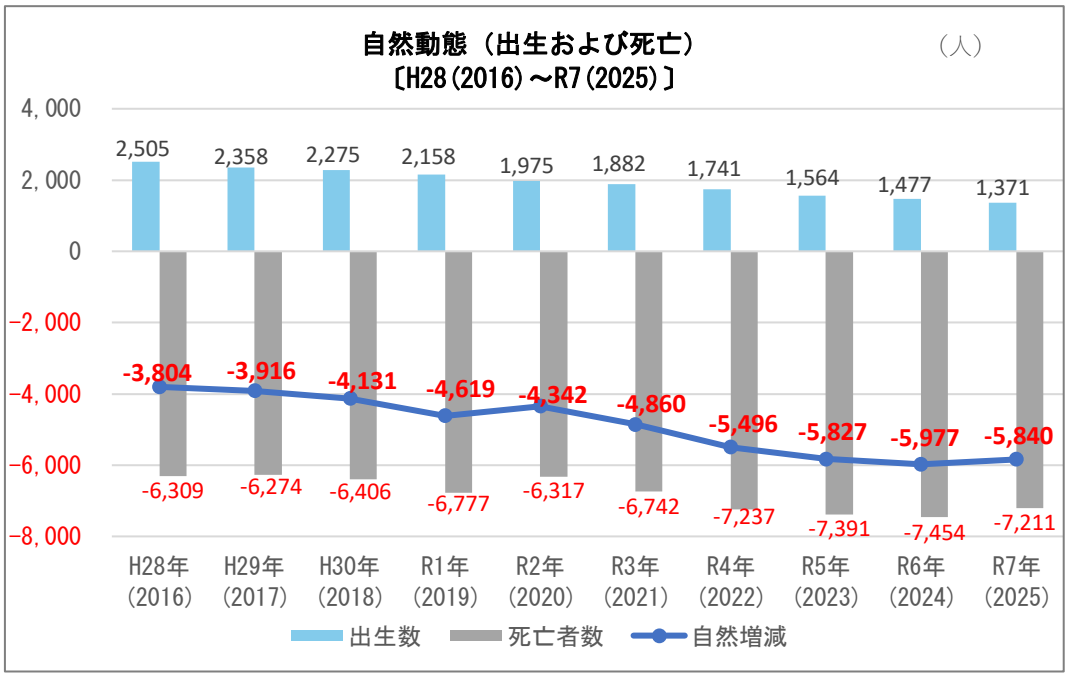


資料：国勢調査，国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(2023)

(3) 人口動態の推移

ア　自然動態の推移

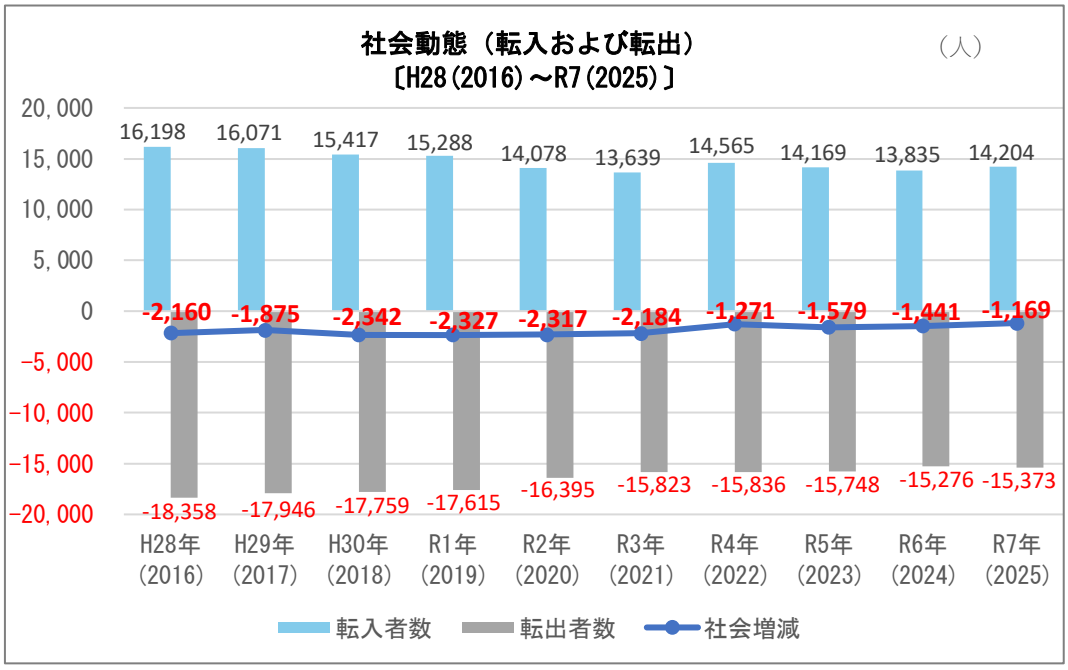
出生数が減少する一方，死亡者数は増加傾向にあり，自然減が一層進行しています。



資料：北海道総合政策部計画局　住民基本台帳人口・世帯数（1 月 1 日現在）

イ　社会動態の推移

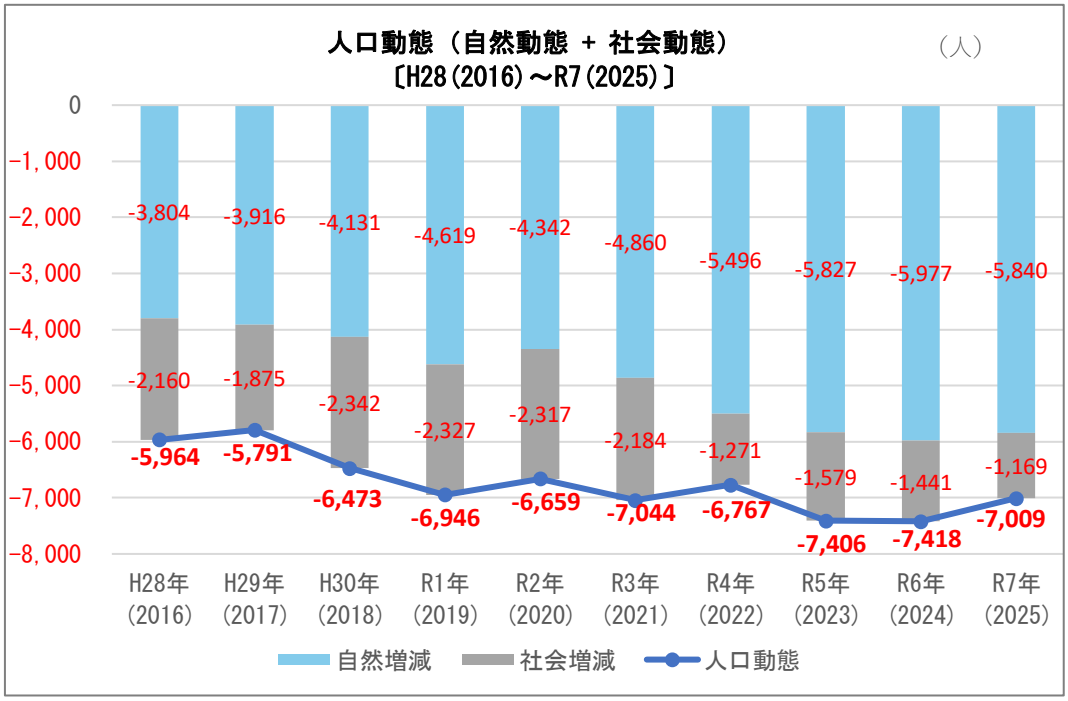
転入者数・転出者数ともに減少傾向にありますが，転出者数が転入者数を上回っているため，社会減が継続しています。



資料：北海道総合政策部計画局　住民基本台帳人口・世帯数（1 月 1 日現在）

ウ　人口動態（自然動態および社会動態）の推移

自然減の進行が，人口減少を大きく押し下げる要因となっています。



資料：北海道総合政策部計画局　住民基本台帳人口・世帯数（1 月 1 日現在）

4　都市機能の集積状況

(1) 行政機関

自治体名	府省等名	行政機関名
函館市	国	［総務省］函館行政監視行政相談センター ［法務省］函館少年刑務所，法務少年支援センターはこだて（函館少年鑑別支所），函館地方検察庁，函館地方法務局，札幌出入国在留管理局函館出張所 ［財務省］函館税関，函館税務署，北海道財務局函館財務事務所 ［厚生労働省］函館労働基準監督署，函館公共職業安定所，函館視力障害センター ［農林水産省］北海道農政事務所函館地域拠点，北海道森林管理局函館事務所 ［国土交通省］函館運輸支局，函館開発建設部，函館海上保安部，函館地方海難審判所，函館地方気象台，函館航空基地，東京航空局函館空港事務所 ［防衛省］陸上自衛隊函館駐屯地，海上自衛隊函館基地隊
	裁判所	函館地方裁判所，函館家庭裁判所，函館簡易裁判所
	北海道	北海道渡島総合振興局，北海道教育庁渡島教育局，北海道立総合研究機構水産研究本部函館水産試験場，北海道立函館高等技術専門学院，北海道警察函館方面本部，函館中央警察署，函館西警察署，函館運転免許試験場，北海道立函館美術館，北海道立工業技術センター，函館湾浄化センター
北斗市	北海道	渡島農業改良普及センター，北海道立総合研究機構道南農業試験場
松前町	裁判所	函館家庭裁判所松前出張所，松前簡易裁判所
	北海道	松前社会福祉事務出張所，渡島地区水産技術普及指導所松前支所，渡島総合振興局西部森林室，函館建設管理部松前出張所，松前警察署
木古内町	北海道	渡島保健所木古内支所，木古内警察庁舎
鹿部町	北海道	北海道立漁業研修所
森町	北海道	渡島保健所森支所，渡島北部地区水産技術普及指導所，森警察署
八雲町	国	［法務省］八雲区検察庁，函館地方法務局八雲支局 ［財務省］八雲税務署 ［厚生労働省］函館公共職業安定所八雲出張所 ［農林水産省］渡島森林管理署，国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所八雲さけます事業所 ［国土交通省］函館開発建設部八雲道路事務所 ［防衛省］航空自衛隊八雲分屯基地
	裁判所	函館家庭裁判所八雲出張所，八雲簡易裁判所
	北海道	八雲保健所，函館建設管理部八雲出張所，八雲警察署

江差町	国	［法務省］函館地方法務局江差支局 ［財務省］江差税務署 ［厚生労働省］函館労働基準監督署江差駐在事務所，函館公共職業安定所江差出張所 ［国土交通省］函館開発建設部江差道路事務所，江差港湾事務所，江差海上保安署 ［防衛省］自衛隊函館地方協力本部江差地域事務所
	裁判所	函館地方裁判所江差支部，函館家庭裁判所江差支部，江差簡易裁判所
	北海道	北海道檜山振興局，北海道教育庁檜山教育局，江差保健所，檜山農業改良普及センター，檜山家畜保健衛生所，江差警察署
上ノ国町	国	［農林水産省］檜山森林管理署上の国森林事務所，奥湯の岱森林事務所
厚沢部町	国	［農林水産省］檜山森林管理署厚沢部森林事務所，南館森林事務所
乙部町	国	［農林水産省］檜山森林管理署乙部森林事務所
奥尻町	国	［農林水産省］檜山森林管理署奥尻森林事務所 ［防衛省］航空自衛隊奥尻島分屯基地
	北海道	檜山地区水産技術普及指導所奥尻支所，函館建設管理部奥尻出張所
今金町	国	［農林水産省］渡島森林管理署今金森林事務所 ［国土交通省］函館開発建設部今金河川事務所，函館農業事務所今金分庁舎，美利河ダム管理支所 ［防衛省］自衛隊函館地方協力本部今金地域事務所
	北海道	八雲保健所今金支所，函館建設管理部今金出張所
せたな町	国	［農林水産省］渡島森林管理署東瀬棚森林事務所 ［国土交通省］瀬棚海上保安署
	北海道	北檜山社会福祉事務出張所，檜山農業改良普及センター北檜山支所，檜山振興局森林室北檜山事務所，檜山地区水産技術普及指導所せたな支所，せたな警察署

(2) 医療

ア　初期救急医療機関

自治体名	施設名
函館市	函館市夜間急病センター

イ　第二次救急医療機関

自治体名	施設名
函館市	国立病院機構函館医療センター，市立函館病院，市立函館恵山病院，市立函館病院附属南かやべ診療所，函館中央病院，函館五稜郭病院，函館市医師会病院，共愛会病院，北海道社会事業協会函館病院，函館渡辺病院，高橋病院，函館おおむら整形外科病院，富田病院，函館新都市病院，函館脳神経外科病院，亀田病院，西堀病院，函館稜北病院
松前町	松前町立松前病院
木古内町	木古内町国民健康保険病院
七飯町	ななえ新病院
森町	森町国民健康保険病院
八雲町	八雲総合病院，八雲町熊石国民健康保険病院
長万部町	長万部町立病院
江差町	道立江差病院，江差脳神経外科クリニック
厚沢部町	厚沢部町国民健康保険病院
乙部町	乙部町国民健康保険病院
奥尻町	奥尻町国民健康保険病院
今金町	今金町国保病院
せたな町	せたな町立国保病院

ウ　第三次救急医療機関

自治体名	施設名
函館市	市立函館病院救命救急センター

エ　周産期母子医療センター

自治体名	施設名
函館市	市立函館病院，函館中央病院
八雲町	八雲総合病院
江差町	道立江差病院

オ　がん診療連携拠点病院

自治体名	施設名
函館市	市立函館病院，函館五稜郭病院

カ　災害拠点病院

自治体名	施設名
函館市	市立函館病院，函館五稜郭病院
八雲町	八雲総合病院
江差町	道立江差病院

(3) 教育・文化・スポーツ・観光

ア　高等教育機関

自治体名	高等教育機関等
函館市	北海道大学大学院水産科学研究院・水産科学院・水産学部，北海道教育大学函館校，公立はこだて未来大学，函館大学，函館短期大学，函館大谷短期大学，函館工業高等専門学校，函館看護専門学校，函館厚生院看護専門学校，函館市医師会看護・リハビリテーション学院，函館歯科衛生士専門学校，大原公務員・医療事務・語学専門学校函館校
長万部町	東京理科大学北海道・長万部キャンパス
江差町	江差高等看護学院

イ　主な文化・学習施設

所在地	施設名
函館市	函館市中央図書館，市立函館博物館，函館市公民館，函館市青少年研修センター，函館市青年センター，箱館奉行所，函館市縄文文化交流センター，旧函館区公会堂，函館市北方民族資料館，函館市北洋資料館，函館市文学館，函館市民会館，函館市芸術ホール，はこだてみらい館，はこだてキッズプラザ，函館市熱帯植物園
北斗市	北斗市総合文化センター，北斗市郷土資料館，北斗市公民館，北斗市立図書館
松前町	松前町町民総合センター，松前町立図書館，松前城資料館，松前町郷土資料館，松前町交流の里づくり館
福島町	福島町福祉センター図書室，福島町チロップ館
知内町	知内町中央公民館，知内町郷土資料館，知内町町民ふれあい工房，知内町青少年交流センター
木古内町	木古内町中央公民館，図書室，木古内町郷土資料館「いかりん館」
七飯町	七飯町文化センター，七飯町図書室，大中山コモン，南北海道大沼婦人会館，大沼国際セミナーハウス，七飯町歴史館，大中山多世代交流地域センター
鹿部町	鹿部中央公民館
森町	森町公民館・森町福祉センター（さわやかセンター・砂原），森町砂原公民館(砂原福祉会館)，森町遺跡発掘調査事務所，森町図書館
八雲町	八雲町公民館，八雲町立図書館，八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館，梅村庭園（梅雲亭），熊石歴史記念館
長万部町	長万部町福祉センター，長万部町学習文化センター，長万部町青少年会館，植木蒼悦記念館，平和祈念館，長万部町民センター
江差町	江差町文化会館，江差町図書館，江差町会所会館，旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館），開陽丸記念館，江差追分会館・江差山車会館，旧中村家住宅，旧関川家別荘
上ノ国町	上ノ国町総合福祉センタージョイ・じょぐら，町民図書室，勝山館跡ガイダンス施設

厚沢部町	厚沢部町郷土資料館，厚沢部町図書館
乙部町	乙部町公民館図書室，乙部町公民館郷土資料室，乙部町民会館
奥尻町	奥尻町海洋研修センター，奥尻島津波館
今金町	ピリカ旧石器文化館，文化財保管・活用庫，今金町民センター，今金町民センター図書室
せたな町	せたな町情報センター，せたな町青少年女性研修所，愛知第２郷土資料室，せたな町生涯学習センター，大成図書館，大成郷土館，大成郷土館分館

ウ　主なスポーツ施設

所在地	施設名
函館市	函館アリーナ，千代台公園陸上競技場，千代台公園野球場，千代台公園庭球場，函館フットボールパーク，根崎公園ラグビー場，市民プール，千代台公園弓道場，根崎公園アーチェリー場，すずらんの丘公園パークゴルフ場，恵山シーサイドパークゴルフ場，入舟町前浜海水浴場，函館市民スケート場
北斗市	北斗市総合体育館，北斗市スポーツセンター，北斗市運動公園多目的広場，北斗市運動公園野球場，北斗市運動公園テニスコート，北斗市運動公園弓道場，北斗市運動公園フットボール場，北斗市運動公園パークゴルフ場，茂辺地森林公園パークゴルフ場，八郎沼パークゴルフ場，北斗市民プール，七重浜海水浴場
松前町	松前町民体育館，松前町民野球場，松前中学校グラウンド
福島町	福島町総合体育館，福島町民プール，福島町ファミリースポーツ公園パークゴルフ場
知内町	スポーツセンター，しおさい野球場，町民プール（遊泳館），知内町営スキー場，ファミリースポーツ広場
木古内町	ファミリースポーツセンター，ふるさとの森町民プール，ふるさとの森スキー場，たかとり球場，フォーレストパーク・りろないパークゴルフ場（佐女川農村公園），木古内町山村広場，ふるさとの森テニスコート
七飯町	七飯町スポーツセンター，町民プール，大中山地域体育館，本町多目的グラウンド，東大沼多目的グラウンド，七飯パークゴルフ場，パーク大中山
鹿部町	鹿部町総合体育館，鹿部町パークゴルフ場，鹿部町山村広場多目的グラウンド，鹿部コミュニティー・プール
森町	森町民体育館，サンビレッジ・森，森町民野球場，森町民テニスコート，森町青少年会館，森町青少年会館柔道場，みどりのレクリエーションの広場，三角山スキー場，三角山パークゴルフ場，尾白内パークゴルフ場，森町ふれあいの森パークゴルフ場，町民プール，森町ふるさと交流館
八雲町	八雲町総合体育館，八雲町温水プール，住初公園（八雲運動公園），八雲スポーツ公園，落部多目的グラウンド，八雲町営スキー場，噴火湾パノラマパークパークゴルフ場，遊楽部公園パークゴルフ場，遊楽部公園多目的グラウンド，くまいしパークゴルフ場

長万部町	長万部町ファミリースポーツセンター，あやめ公園（パークゴルフ場），ふれあい公園野球場
江差町	江差町運動公園，江差町民野球場，江差町民多目的広場，サブグラウンド，江差町民テニスコート，江差町民子どもふれあい広場フットサルコート，江差町民子どもふれあい広場バスケットボールコート，江差町朝日町民体育館，江差町水堀町民プール
上ノ国町	上ノ国町スポーツセンター，天の川ふれあい広場パークゴルフ場，上ノ国町湯ノ岱スキー場，上ノ国町民球技場
厚沢部町	厚沢部町総合体育館，厚沢部町民総合グラウンド，厚沢部町多目的交流広場（パークゴルフ場），厚沢部町民プール，太鼓山スキー場
乙部町	乙部町民体育館，乙部地区町民グランド，乙部町民プール，館浦温泉公園，ゆりの里公園パークゴルフ場，館浦温泉公園多目的運動場
奥尻町	奥尻町町民センター，奥尻町桜ケ丘スキー場
今金町	今金町総合体育館，今金町健民グラウンド，せいりゅうパークゴルフコース，ピリカスキー場
せたな町	せたな町民体育館，北檜山スポーツ公園，せたな町真駒内球場，せたな町民プール，丹羽スキー場，せたな町 B&G 海洋センター体育館，せたな町 B&G 海洋センタープール，せたな町 B&G 海洋センター艇庫，せたなスポーツ広場，せたな町 B&G 海洋センターテニスコート，せたな町三杉球場，夕陽が丘パークゴルフ場，大成農村広場，大成スキー場，大成町民プール，三本杉海水浴場，ふとろ海水浴場，平浜海水浴場

エ　主な観光・レクリエーション施設

所在地	施設名
函館市	函館山ロープウェイ，函館朝市，五稜郭タワー，金森赤レンガ倉庫群・ベイエリア，北海道立道南四季の杜公園，白石公園はこだてオートキャンプ場
北斗市	きじひき高原パノラマ展望台，きじひき高原キャンプ場，松前藩戸切地陣屋跡，トラピスト修道院
松前町	松前城・松前公園，松前藩屋敷，寺町，道の駅北前船松前，白神岬，北鷗碑林，松前温泉休養センター
福島町	横綱千代の山・千代の富士記念館，福島町青函トンネル記念館，岩部クルーズ，海峡横綱ビーチ，伊能忠敬北海道測量開始記念公園
知内町	道の駅しりうち，知内町物産館，北島三郎ギャラリー（知内町役場庁舎内），新幹線展望塔
木古内町	木古内町観光交流センター（道の駅みそぎの郷きこない），サラキ岬，札苅村上芝桜園
七飯町	大沼国定公園，道の駅なないろ・ななえ，城岱牧場展望台，男爵いも発祥の地モニュメント，名曲「千の風になって」誕生の地，七飯町大沼ネイチャーセンター，大沼国際交流プラザ
鹿部町	道の駅しかべ間歇泉公園，鹿部公園，ひょうたん沼公園
森町	道の駅ＹＯＵ・遊・もり，道の駅つど～る・プラザ・さわら，青葉ヶ丘公園，オニウシ公園，北海道駒ヶ岳，鳥崎八景，濁川温泉

八雲町	噴火湾パノラマパーク，八雲町育成牧場，オートリゾート八雲，熊石青少年旅行村
長万部町	長万部海岸，長万部公園，長万部温泉街，長万部観光協会
江差町	かもめ島，姥神大神宮，いにしえ街道，旧中村家住宅，江差追分会館・江差山車会館，開陽丸記念館，旧檜山爾志郡役所（江差町郷土資料館），道の駅江差
上ノ国町	夷王山神社，北海道夜明けの塔，史跡上之国館跡，勝山館跡ガイダンス施設，旧笹浪家住宅，上ノ国町国民温泉保養センター，花沢温泉，道の駅上ノ国もんじゅ，上ノ国ワイナリー＆サテライトオフィス
厚沢部町	館城跡，道の駅あっさぶ，鶉ダム展望台，鶉ダムオートキャンプ場「ハチャムの森」，土橋自然観察教育林（レクの森），うずら温泉
乙部町	滝瀬海岸シラフラ展望公園，くぐり岩，宮の森公園展望スポット，元和台海浜公園，元和台緑地広場，しびの岬公園
奥尻町	なべつる岩，うにまる公園（うにまるモニュメント），球島山展望台，宮津弁天宮，奥尻島津波館，北追岬公園，徳洋記念緑地公園，奥尻 21 世紀復興の森，神威脇温泉保養所
今金町	クアプラザピリカ（温泉，キャンプ場，スキー場），美利河ダム，ピリカ旧石器文化館，後志利別川，あったからんど，種川温泉休憩所
せたな町	三本杉岩，立象山公園，せたな青少年旅行村，玉川公園，浮島公園，道の駅てっくいランド大成，親子熊岩，太田神社，北檜山グリーンパーク

キ　主な交通インフラ

区分	名称
鉄軌道系公共交通機関	JR 北海道（北海道新幹線，函館本線），道南いさりび鉄道線，函館市電
都市間バス	函館⇔札幌（北海道バス，北海道中央バス・函館バス）
路線バス	函館バス，函館帝産バス，北海道バス，大沼交通，森町地域公共交通バス「もりっくる」（森町），ニセコバス，奥尻町有バス（奥尻町）
空港	函館空港⇔東京（羽田，成田），名古屋，大阪（伊丹），札幌（丘珠・新千歳），奥尻，台北（桃園），奥尻空港⇔函館，札幌（丘珠）
港湾	函館港〔若松ふ頭（函館クルーズターミナル），港町ふ頭（コンテナヤード）〕，椴法華港，松前港，森港，江差港，奥尻港，瀬棚港
フェリー	津軽海峡フェリー，青函フェリー，オクシリアイランドフェリー
高規格道路	北海道縦貫自動車道（大沼公園 IC，森 IC，落部 IC，八雲 IC，国縫 IC，長万部 IC），函館・江差自動車道（函館 IC，北斗追分 IC，北斗中央 IC，北斗富川 IC，北斗茂辺地 IC，木古内 IC），函館新外環状道路（函館 IC，赤川 IC，函館空港 IC）
デマンドバス等	（北斗市）巡回ワゴン，（松前町）地域生活バス「大漁くんバス」，松前町公共ライドシェア，（福島町）福島町デマンドバス，（知内町）知内町デマンドバス，（七飯町）大沼おでかけ号，

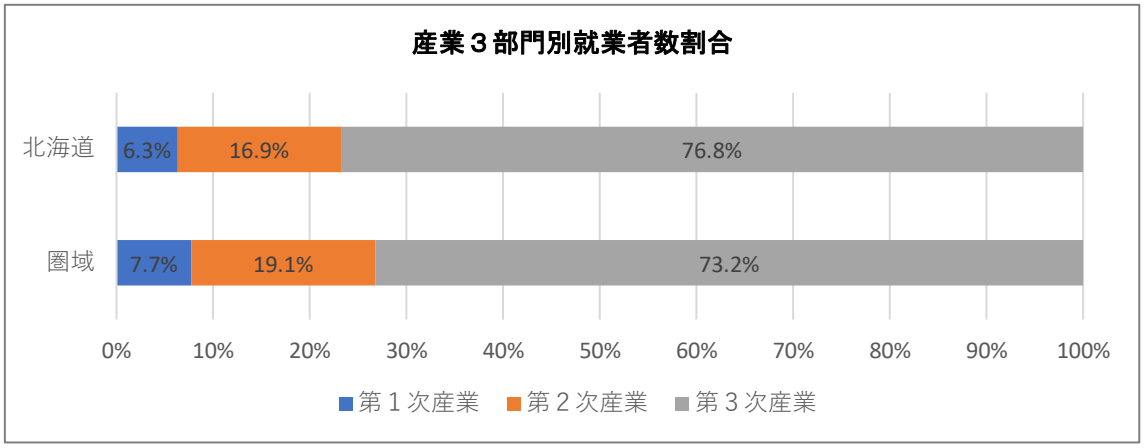
デマンドバス等	（鹿部町）鹿部町デマンド交通，（八雲町）熊石・八雲間予約バス，（江差町）江差マース，（上ノ国町）上ノ国町デマンド交通カミ GO!，（乙部町）乙部町乗り合いタクシー，高校生デマンドタクシー，（今金町）今金町予約制（デマンド）バス，予約バス「まちなかルンるん号」，（せたな町）デマンドバス
道の駅	（函館市）縄文ロマン南かやべ，なとわ・えさん，（松前町）北前船松前，（福島町）横綱の里ふくしま，（知内町）しりうち，（木古内町）みそぎの郷きこない，（七飯町）ななえいろ・ななえ，（鹿部町）しかべ間歇泉公園，（森町）つど～る・プラザ・さわら，YOU・遊・もり，（江差町）江差，（上ノ国町）上ノ国もんじゅ，（厚沢部町）あっさぶ，（乙部町）ルート２２９元和台，（せたな町）てっくいランド大成

5　経済・産業等の状況

経済・産業の構造

ア　産業３部門別就業者数割合

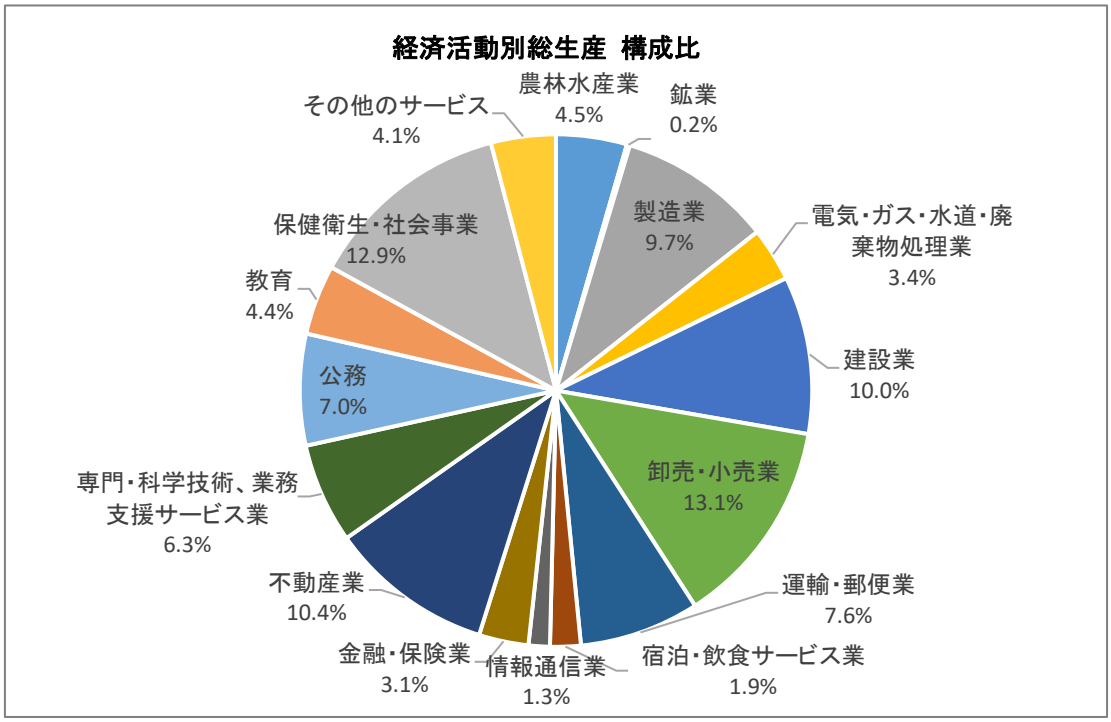
１次産業および２次産業の構成比が北海道全体と比較して，やや高くなっています。



資料：国勢調査（2020）

イ　経済活動別総生産構成比

卸売・小売業が（13.1%）と最も高く，保健衛生・社会事業（医療・福祉，12.9%），不動産業（10.4%），建設業（10.0%）と続いています。



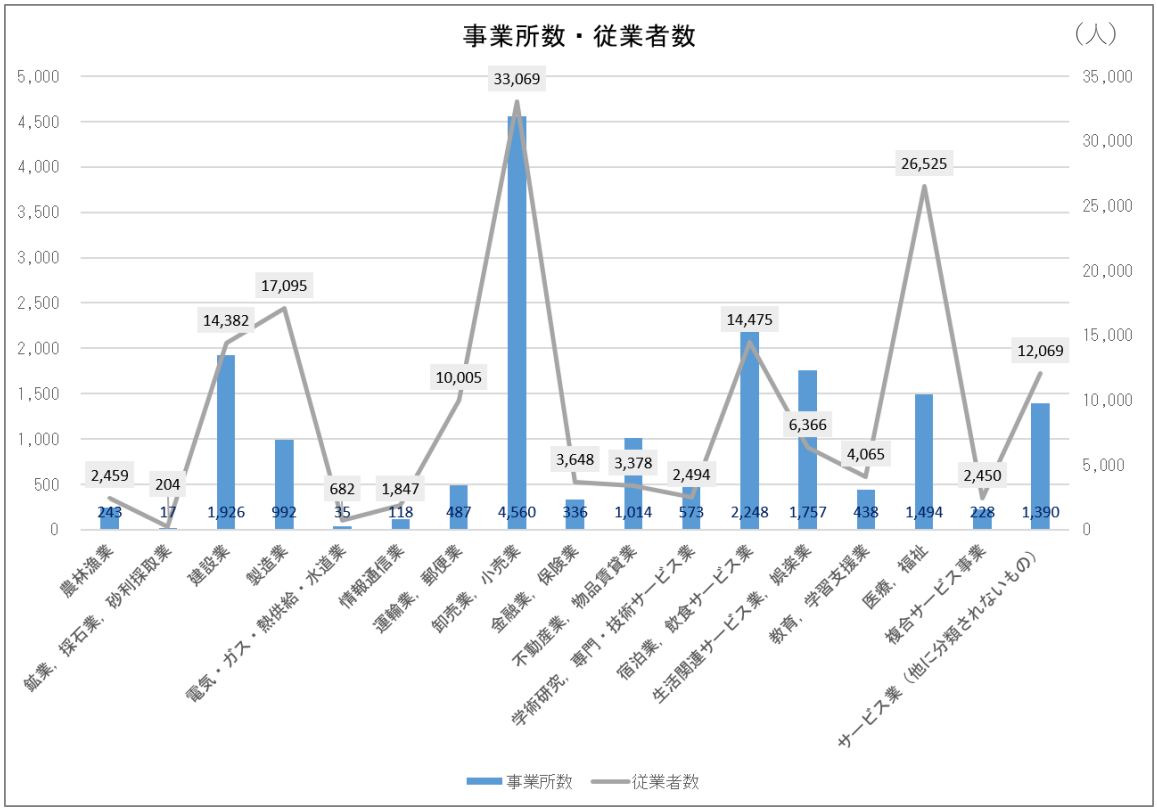
資料：道民経済計算年報（2022）

ウ　事業所数・従業者数

卸売業，小売業が事業所数・従業者数ともに最も多く，圏域の商業機能の中心となっています。

また，医療，福祉は事業所数（1,494 事業所）に対して従業者数（26,525 人）が多く，病院・介護施設等の比較的規模の大きい事業所が圏域の雇用を支えていることがわかります。同様に製造業も，事業所数（992 事業所）に比べ従業者数（17,095 人）の割合が高く，水産加工業などの産業が集積していることがわかります。

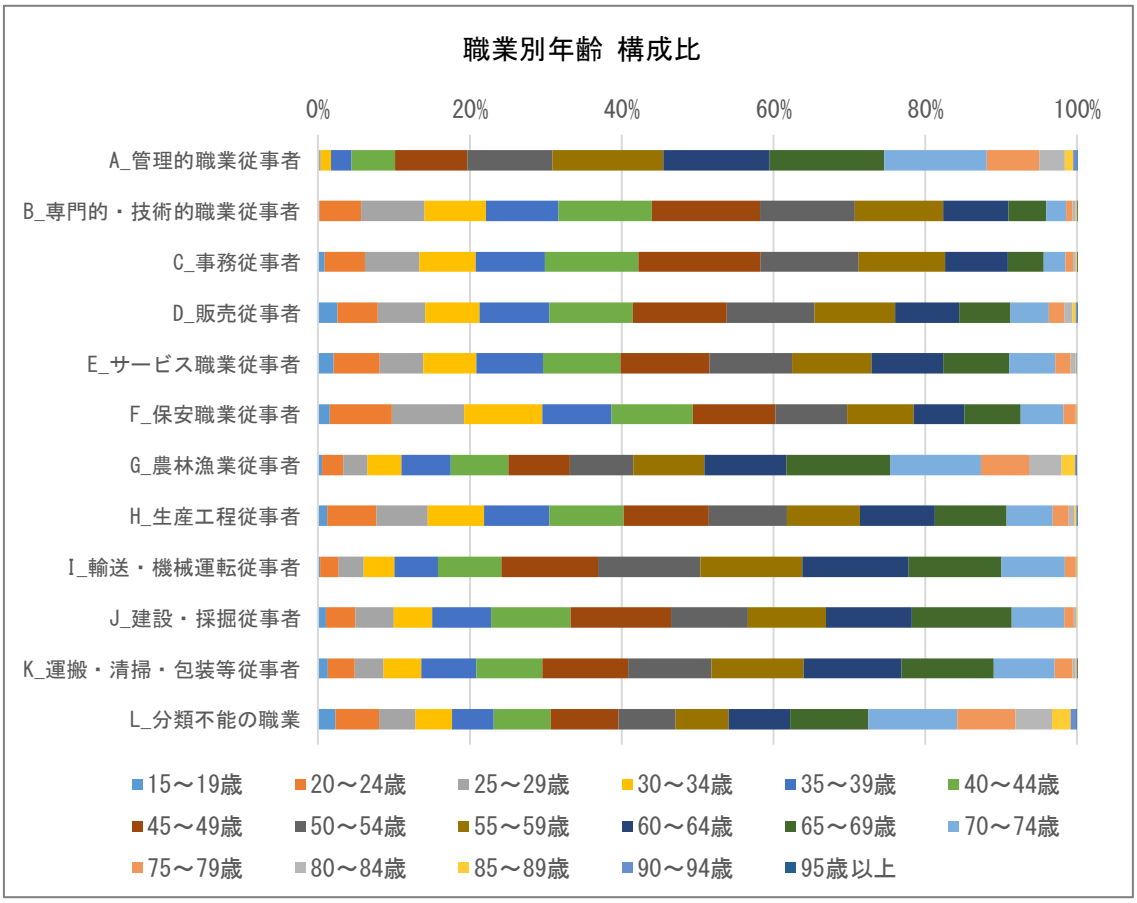
なお，農林漁業の事業所数は，経済センサスの調査対象が法人経営に限られるため，実際の一次産業従事者はこれを大きく上回ります。



資料：経済センサス（2021）

エ　職業別年齢構成比

職業別の年齢構成比をみると，農林漁業従事者は他の職業と比べて 65 歳以上の高齢層の占める割合が高く，15～39 歳の若年層の割合が低いという，高齢化が進んだ年齢構成となっています。



資料：国勢調査（2020）

(1) 農業

水稲，畑作，野菜，花き，果樹，酪農，畜産など多様な農業が展開されており，水稲では，道南地域で品種開発された「ふっくりんこ」などが栽培されています。渡島地域では比較的温暖な気候を生かした園芸作物の生産が盛んで，長ねぎやにら等が生産されているほか，酪農，畜産も営まれています。檜山地域では，メークイン発祥の地とされ，地域団体商標に登録されている厚沢部町の「あっさぶメークイン」や地理的表示（GI）保護制度に登録された「今金男しゃく」など，特色ある農産物も生産されています。

一方で，農家戸数の減少や農業従事者の高齢化が深刻化しており，担い手の確保・育成やスマート農業の導入による省力化・生産性の向上が求められています。

(2) 水産業

太平洋，日本海および津軽海峡の３つの海域に面し，地域や海域の特性に応じた多種多様な漁業が営まれています。渡島地域ではコンブ，ウニ等の採介藻漁業をはじめ，ホタテガイやコンブの養殖，イカ釣り，定置網漁業などが行われています。檜山地域では，回遊性魚類を主体とする漁船漁業に加え，ウニやナマコ等の採介藻漁業，サケの定置網漁業が営まれています。また，ニシン等の種苗放流による栽培漁業が推進されているほか，八雲町では，「北海道二海サーモン」の海面養殖，函館市ではキングサーモンとマコンブの完全養殖技術の確立などを目指す「函館マリカルチャープロジェクト」が進められています。

一方，サケやスルメイカなどの主要魚種の漁獲低迷が続いており，栽培漁業や養殖業の推進による漁業経営の安定化に加え，深刻化する漁業者の高齢化や後継者不足に対応するための担い手の確保・育成を進めていくことが求められています。

(3) 林業・木材産業

森林面積は，529 千 ha で，総土地面積の約８割，全道の森林面積の約１割を占めており，トドマツやスギなどの人工林が利用期を迎えています。ブナおよびヒバの北限地帯であるとともに，トドマツの南限地帯とも重なる特徴的な圏域となっています。渡島地域では，森林認証の取得や「道南スギ」のブランド化など，付加価値向上に向けた取組が進められており，檜山地域では，ゼロカーボン檜山の実現に向けた適切な森林整備や公共建築物の木造化など，地域材の利用拡大に向けた取組が進められています。

一方，林業従事者の減少や担い手不足が課題となっており，スマート林業の導入による省力化・効率化に加え，地材地消の強化とブランド化などによる高付加価値化を進めていくことが求められています。

(4) 商工業

渡島地域では，北洋漁業の歴史に加え，イカやスケトウダラの水産資源に恵まれていたことなどから，水産加工業や造船業などの海洋関連産業を中心に発展してきましたが，近年は水産資源減少などを背景に，関連企業を取り巻く環境は厳しさを増しています。一方，造船業では，2026 年 7 月に策定された「日本成長戦略」において，重点投資の対象とする戦略分野の一つに掲げられており，建造能力の増強による雇用拡大や関連産業への波及が期待されています。檜山地域では，建設業が主要産業となっていますが，商業では，小規模事業者が多く，人口減少や購買力の地域外への流出，経営者の高齢化などを背景に，卸売業・小売業の事業所数は減少傾向にあります。地域経済の持続的な発展に向け，担い手の育成・確保や若年層を対象とした地元企業への就職促進などを進めていくことが求められています。

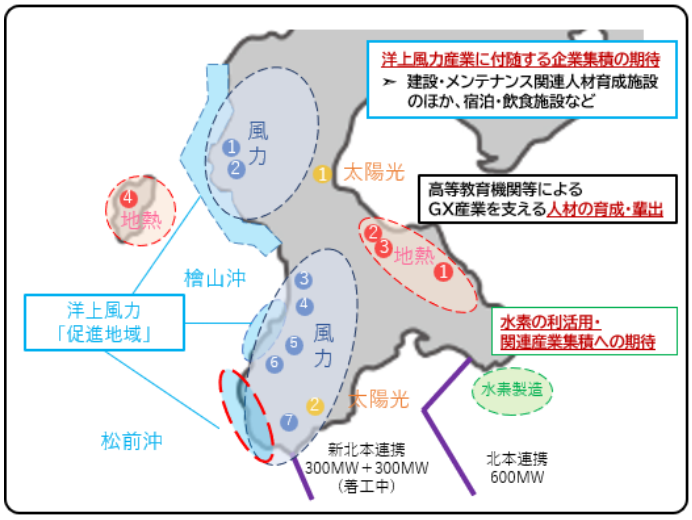
また，新たな産業の創出に向け，洋上風力発電など再生可能エネルギーの活用に向けた取組が進められており，ＧＸの推進による地域経済への波及や雇用創出が期待されています。

(5) ＧＸ関連産業

本圏域は，再生可能エネルギーの導入ポテンシャルが高く，2050 年カーボンニュートラルの実現に向けた「ゼロカーボン北海道」の取組において重要な役割を担うことが期待されています。特に，令和 7 年（2025 年）に，圏域内の海域である「北海道松前沖」および「北海道檜山沖」が再エネ海域利用法に基づく「促進区域」に指定されるなど，導入に向けた取組が進められています。また，奥尻町および厚沢部町がそれぞれ「脱炭素先行地域」に選定されているほか，「函館渡島檜山ゼロカーボン北海道推進協議会」を通じ，圏域が連携した地域プロジェクトの創出や情報共有が進められています。

今後は，地域産業との共生に配慮しながら，ＧＸ関連産業の発展や港湾利用の活性化を進めるとともに，地元企業の参入促進や雇用の創出につなげ，その効果を地域へ還元していくことが求められています。

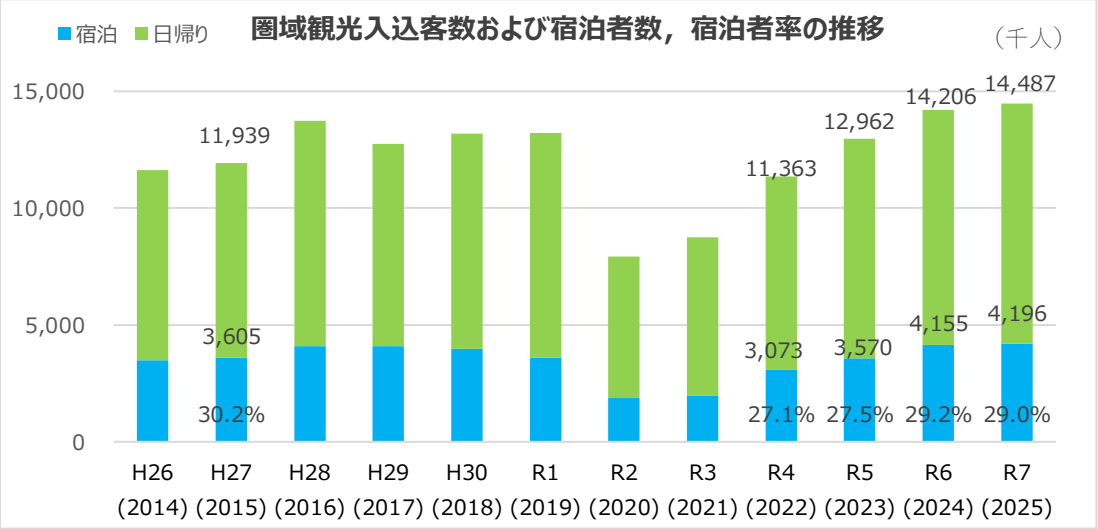
＜域内再エネの導入例（風力・太陽光(発電量 10MW 以上)，地熱発電所）＞



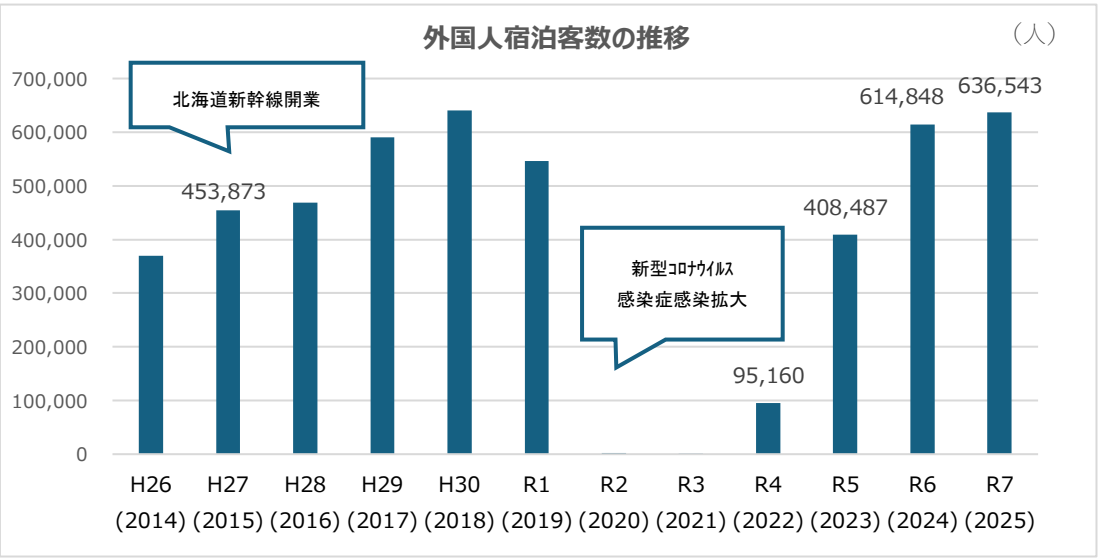
(6) 観光

本圏域は，豊かな自然や食，温泉，歴史・文化など多彩な観光資源を有し，近年，観光入込客数は増加傾向にあります。渡島地域は，函館市を中心に国内外から多くの観光客が訪れており，檜山地域は歴史文化や自然景観を生かした観光振興が進められています。令和 7 年（2025 年）7 月には，令和 15 年度（2033 年度）までに年間宿泊客延数 1,000 万人泊の達成を目指す広域観光圏の形成に関する決議を行いました。

宿泊客延数の増加に向け，観光コンテンツの磨き上げや圏域一体となったプロモーションを強化し，各地域に点在する魅力を有機的に結び付けるとともに，訪日外国人観光客の受入環境整備などを進める必要があります。また，函館港に寄港するクルーズ船の乗客や圏域内で開催される大会・イベントの来訪者の各地域への周遊を促し，圏域全体への観光消費の波及につなげていくことも課題となっています。



資料：北海道経済部　北海道観光入込客数調査報告書（2025）



資料：北海道経済部　北海道観光入込客数調査報告書（2025）

(7) 社会福祉

本圏域では，少子高齢化と人口減少が全道を上回るペースで進行しており，檜山地域では特に高齢化率が高い状況にあります。

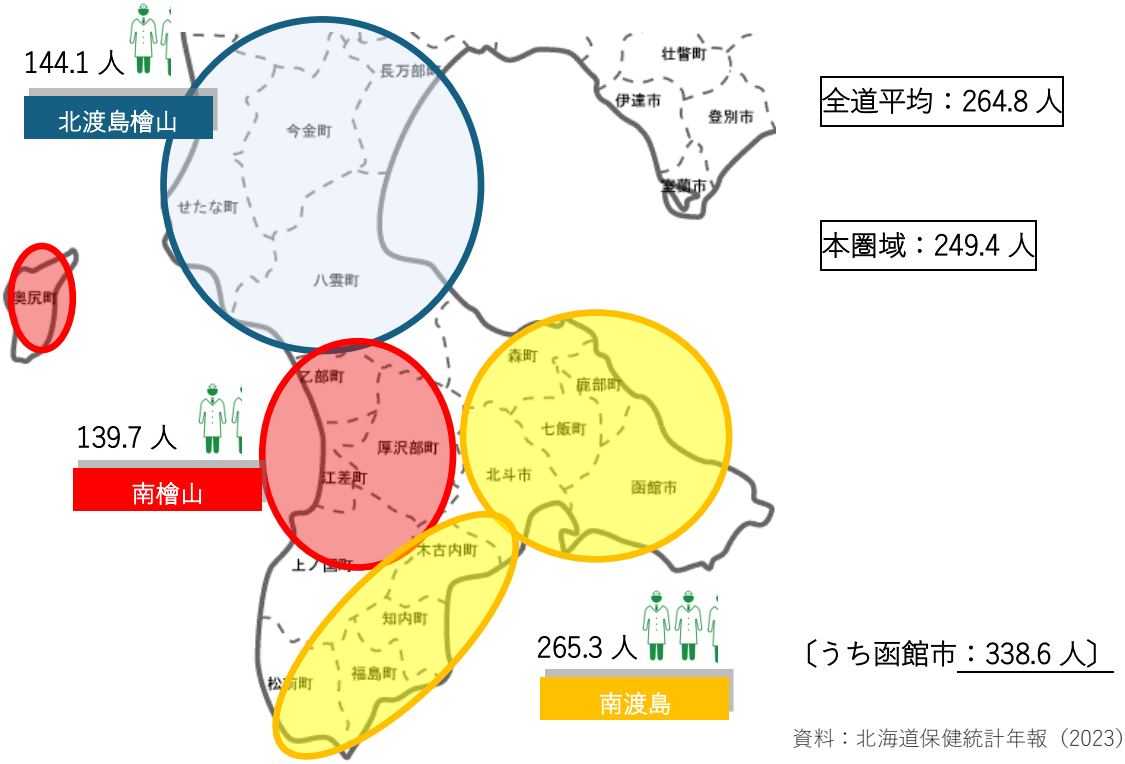
こうした中，地域の支え合い機能の維持が課題となっていることから，医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスを一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築や少子高齢化対策の強化など，地域全体で高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる環境づくりを進める必要があります。また，働く意欲のある高齢者が活躍できる環境づくりも，地域経済の維持に向けた重要な視点となっています。

(8) 保健・医療

本圏域は，３つの第二次医療圏で構成され，道南全体を第三次医療圏として，連携した医療提供体制の整備が進められています。市立函館病院は，中核医療機関として，第三次医療機関（救命救急センター）や道南ドクターヘリの基地病院，地域がん診療連携拠点病院，脳卒中の救急期医療を担う医療機関など，様々な役割を担っているほか，第三次医療圏内の他の自治体病院への医師派遣等を通じ，連携強化に取り組んでいます。

一方，医師数は函館市に集中し，周辺地域や離島では，救急搬送体制の維持が課題となっています。今後は，道南ドクターヘリの安定的な運航や在宅医療体制の充実を図るとともに，圏域全体で切れ目のない医療提供体制を確保していくことが求められています。

＜第二次医療圏別医師数の状況（人口 10 万対）＞



資料：北海道保健統計年報（2023）

(9) 教育・文化

本圏域には，「公立はこだて未来大学」をはじめ，大学や短期大学等の高等教育機関が立地しているほか，圏域内の施設を活用した文化・スポーツ大会やイベントが開催されています。渡島地域は，特別史跡五稜郭跡など文化遺産が点在しているほか，檜山地域はニシン漁と北前船交易で栄えた歴史を伝える街並みが残されるなど，地域固有の歴史や文化が保存・継承されています。

今後は，子どもたちが地元の歴史や産業への理解を深める機会を充実させるほか，ＧＸやデジタル化などの社会経済情勢の変化に対応できる次世代人材やデジタル技術を活用して地域課題の解決に貢献する人材を育成するなど，将来の域内就職や地域産業の担い手確保につなげていくことが求められています。

(10) 交通・運輸

陸・海・空の交通結節点を形成し，二次交通の確保を進めています。北海道新幹線や函館空港・港湾を中心とした広域交通網が整備される一方，地方の公共交通の維持が課題となっており，デマンド交通などデジタル技術を活用した移動手段の確保に取り組んでいます。

地方部における公共交通の維持は深刻な課題であり，各市町が個別に運行するデマンド交通等を幹線バスと有機的に結ぶ結節点の整備など，自治体間連携による効率的な交通ネットワークの構築が求められています。また，北海道新幹線の札幌延伸に伴う並行在来線の経営分離への対応や函館江差自動車道をはじめとする高規格道路の早期整備は，圏域の広域交通ネットワークの維持および災害時の代替路確保等の観点からも，引き続き重要な課題となっています。

＜域内高速交通ネットワーク図＞



(11) 防災・消防

本圏域の防災対策においては，気象台・自衛隊・振興局および各自治体が密接に連携した情報共有体制の構築が進められているほか，消防・救急面では，消防団員の確保，ドクターヘリとの連携による救急医療提供体制の強化が図られています。

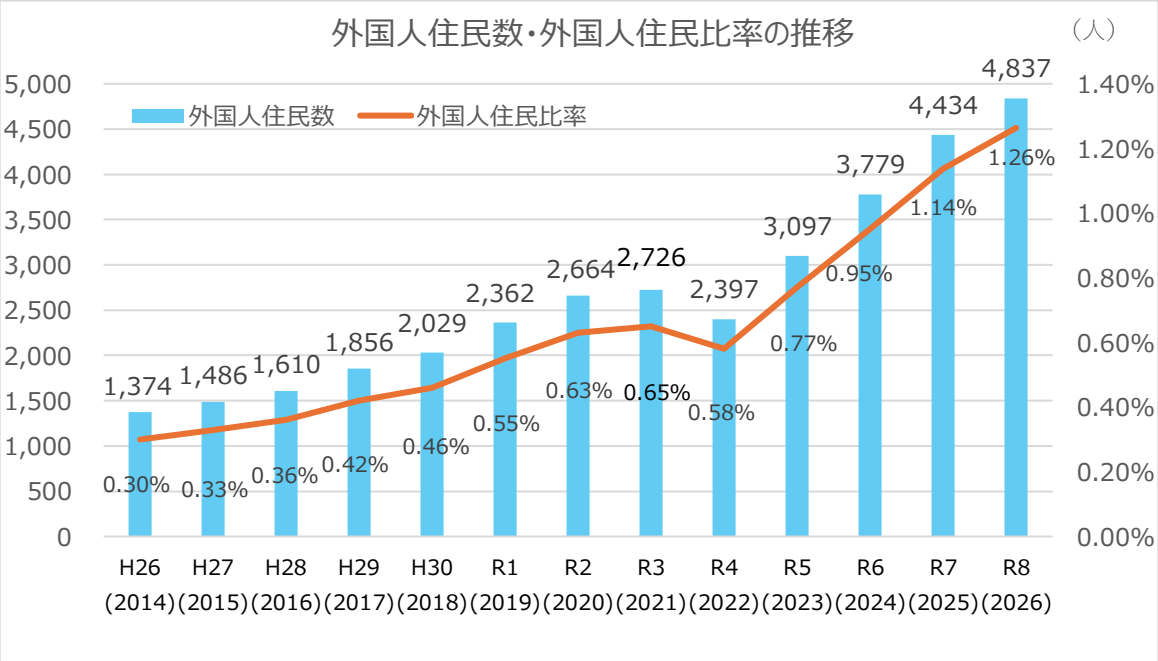
今後においても，火山噴火・地震・津波・大雨など自然災害の激甚化・頻発化に対応するため，避難場所の整備や情報伝達体制の強化，住民の防災意識向上に向けた継続的な取組が必要となるほか，特定利用空港･港湾の整備促進による災害用備蓄等の大型保管庫設置など，広域的な防災・災害の拠点の確立についても課題となっているところです。

また，人口減少や財政制約が進む中，圏域全体の消防・救急体制をより効率的かつ効果的なものとするため，通報から出動までの迅速化や広域災害時における連携強化が期待される消防指令センターの共同運用についても，今後，協議を進めていく必要があります。

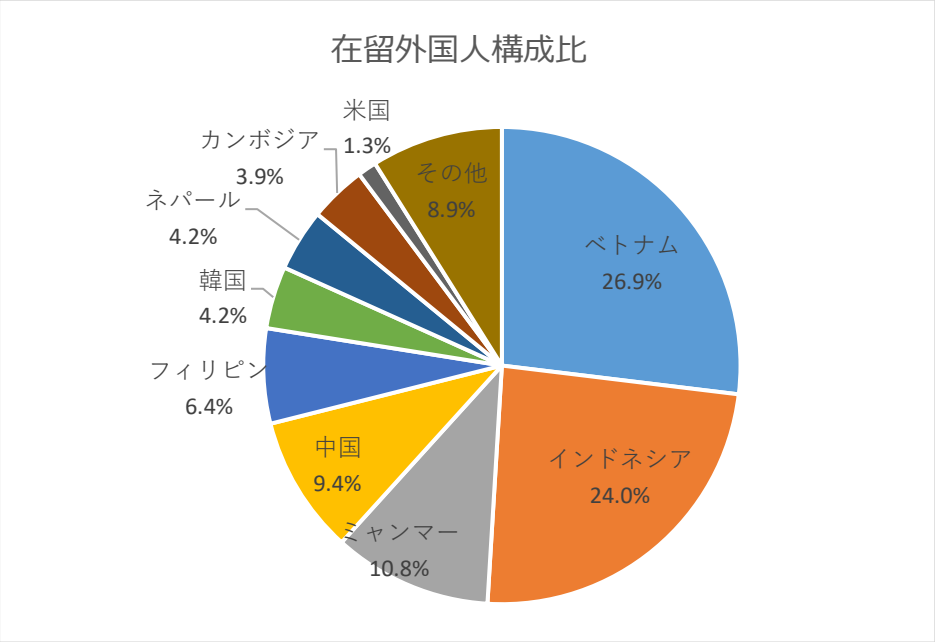
(12) 国際交流

多様な文化を受け入れてきた歴史があり，姉妹都市交流等を継続しています。近年，訪日外国人宿泊客数は増加傾向にあり，函館空港への台湾定期便就航やビザ緩和を背景に，アジア圏からの観光客が急増しています。

また，在住外国人数は大幅に増加しており，外国人住民が地域社会に溶け込み，安心して暮らせる環境づくりが求められています。外国人材は，一次産業をはじめとする圏域の産業を共に支える大切な存在となりつつあり，地域が連携して受入・定着環境を整えていく必要があります。



資料：北海道総合政策部計画局　住民基本台帳人口・世帯数（1 月 1 日現在）



資料：出入国在留管理庁　在留外国人統計（2025 年 12 月末現在）

第３章 圏域の中長期的な将来像

１　圏域が目指す将来像

訪れたい，働きたい，住みたい　南北海道

～世界から選ばれ，安心して暮らせる地域を目指して～

(1) 圏域の将来像

本圏域は，三方を囲む豊かな海，広大な台地や森林が織りなす風光明媚な自然と，この風土に育まれた農林水産資源を有し，1859 年（安政 6 年）の開港以来，国内外との交易・交流の拠点として栄え,「北海道の玄関口」として開拓の時代から深く歴史を刻んできました。

圏域唯一の中核市である函館市には，高度医療や高等教育，商業や行政の中心機能が集積しており，北海道新幹線の新函館北斗駅・木古内駅をはじめ，JR 函館駅，函館港，函館空港を結節点とした陸･海･空の広域交通ネットワークがこれらを支えています。これにより，通勤や通学，通院，買物など，住民の日常生活のあらゆる面で深く結びついた地域社会が形成されています。

しかし，現在は圏域全体で少子高齢化と本格的な人口減少が進行しており，地域交通や医療，商業といった生活関連サービスの維持は厳しさを増しています。このままでは，圏域全体の活力低下や住民が安心して快適に暮らすための生活基盤の脆弱化に直結しかねない，深刻な状況に直面しています。

また，中長期的な視点では，社会保障関係費の増大や道路・上下水道，港湾・海岸保全施設をはじめとする膨大なインフラの老朽化対策など，行政需要が高度化・多様化する一方，生産年齢人口の減少に伴う地方税収の減少や自治体職員の不足により，個々の自治体が単独で行政サービスや経営資源を維持することは極めて困難な見通しとなっています。

このような危機意識のもと，本ビジョンにおいては，圏域が一体となり，経済や産業が集積する中枢都市である函館市が「経済成長のけん引」と「高次都市機能の集積・強化」を担い，周辺市町は，多様な農林水産資源や再生可能エネルギー資源といった独自の強みを活かしてこれに呼応します。あわせて，地域の優れた学術・研究機関とも深く連携し，デジタル技術の活用による行政事務の効率化や専門人材の共有，公共施設の広域的なマネジメントの徹底により，限られた経営資源を最適化し，「生活関連機能サービスの向上」を圏域全体で実現していきます。

圏域各市町が互いの魅力や可能性を掛け合わせ，取組を支え合いながら，本圏域が持つ多様な資源の価値を高めるとともに，函館市がヒト・モノ・産業の集積する拠点となることで，「北海道の玄関口」としての存在感をより確固たるものとしていきます。

こうして，誰もが安心して暮らし続けられ，地域の資源と人の力が活力を生み出す圏域を，市町がともに歩みながら未来へつないでいきます。

(2) 人口の将来展望

本圏域における人口動態は，全国平均を上回るスピードで人口減少と少子高齢化が進行する，極めて深刻な局面に直面しています。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）等の将来推計によると，連携中枢都市である函館市をはじめ管内各市町において，今後も総人口の減少と高齢化率の上昇が一途をたどる見通しで，特に，進学や就職を契機とした若年層の圏域外への流出超過が顕著で，これが地域社会の担い手不足や出生数の低下を招く「負の連鎖」をもたらしています。

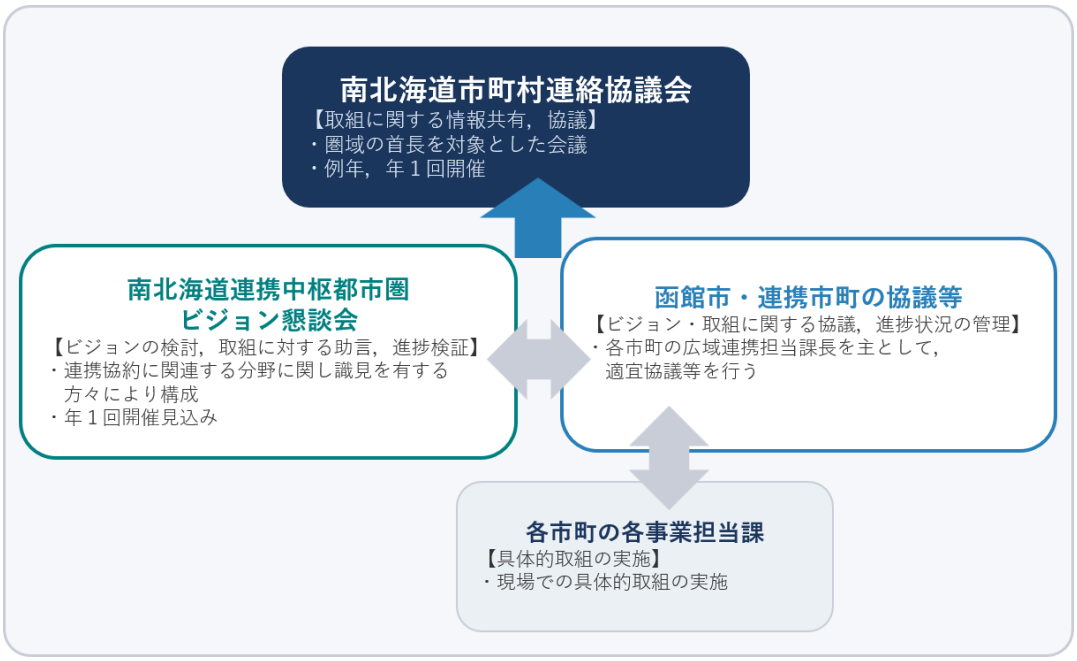
この人口動態に対する危機意識を共有し，本ビジョンに基づく「経済成長のけん引」「高次都市機能の集積・強化」「生活関連機能サービスの向上」に係る連携施策を集中的に展開することにより，人口減少のスピードを緩和し，圏域の活力を維持するための中長期的な目標値を以下のとおり設定します。

本圏域の人口ビジョン

区分	圏域内人口（人）	高齢化率（%）
平成２２年（２０１０年）（国勢調査）	４６９，８６５	２８．１
平成２７年（２０１５年）（国勢調査）	４４２，６６８	３２．８
令和　２年（２０２０年）（国勢調査）	４１３，７６７	３６．６
令和　７年（２０２５年）（国勢調査）	３７８，１６８	３８．４
令和２２年（２０４０年）（目　　標）	**３２０，０００**	**４０．０**

(3) 推進体制

本ビジョンの具体的取組を円滑かつ効果的に推進するため，以下の体制を構築します。



第４章 具体的取組

要綱上の区分				連携事業名	連携市町																		
					函館市	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町
ア	圏域全体の経済成長のけん引																						
	a	産学金官民一体となった戦略の策定，国の成長戦略実施のための体制整備																					
	b	産業クラスターの形成，イノベーション実現，新規創業促進，地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成	1	GXの推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			2	GX関連人材の育成支援等	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			3	地域におけるデジタル人材の育成	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	c	地域資源を活用した地域経済の裾野拡大																					
	d	戦略的な観光施策	4	広域観光の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			5	外国人観光客受入体制の整備	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	e	その他，圏域全体の経済成長のけん引に係る施策																					
イ	高次の都市機能の集積・強化																						
	a	高度な医療サービスの提供	6	高度で幅広い知識や技術を有する看護師の育成に向けた取組み，	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			7	看護師の派遣	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	b	高度な中心拠点の整備・広域的公共交通網の構築	8	函館港における物流拠点の整備	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	c	高等教育・研究開発の環境整備	9	地域を支える人材の育成・確保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	d	その他，高次の都市機能の集積・強化に係る施策																					
ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上																						
	A	生活機能の強化に係る政策分野																					
	a	地域医療	10	夜間急病センターの運営支援	●	●					●												
			11	ドクターヘリの運航支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			12	二次救急医療体制の維持・確保	●	●					●												
			13	脳疾患救急搬送体制の運営支援												●	●	●	●				
			14	医療情報共有化の推進												●	●	●	●	●			
			15	救急救命士病院実習の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			16	理学療法士および作業療法士の養成支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			17	医療・介護連携の推進	●	●					●												
	b	介護																					
	c	福祉	18	障害者地域生活支援事業の推進	●	●					●												
	d	教育・文化・スポーツ	19	文化・スポーツ施設の相互利用の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	e	土地利用																					
	f	地域振興	20	販路開拓支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			21	創業支援の推進，	●	●					●												
			22	先進技術の開発・利用促進および高度技術の普及支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	g	災害対策																					
	h	環境																					
	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野																					
	a	地域公共交通	23	第三セクター鉄道への支援	●	●				●													
			24	生活バス路線の維持・確保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			25	JR函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保	●	●					●	●	●	●	●								
	b	デジタルインフラ整備																					
	c	道路等の交通インフラの整備・維持	26	交通インフラの整備に係る期成会活動の促進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	d	地域の生産者や消費者等の連携による地産地消																					
	e	地域内外の住民との交流・移住促進	27	国際交流・多文化共生の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			28	移住・定住の促進	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	f	その他，結びつきやネットワークの強化に係る連携	29	消費生活相談の広域的対応	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●								
	C	資源制約に対応するための圏域マネジメント等に係る政策分野																					
	a	人材の育成（デジタル人材の育成を含む。）																					
	b	外部からの行政及び民間人材の確保																					
	c	圏域内市町村の職員等の交流	30	職員研修に係る情報共有および合同研修の実施	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
			31	高等教育機関との連携による地域マネジメント能力の向上	●	●							●			●							
	d	圏域内の公共施設の集約化・共同利用等																					
	e	人材をはじめとする資源を効率的に活用するために必要な事務の共同実施	32	AI・DXの推進等による行政運営の効率化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	f	その他，圏域マネジメント能力の強化に係る連携																					

1　圏域全体の経済成長のけん引

大分類	ア	圏域全体の経済成長のけん引
中分類	＊	-
小分類	b	産業クラスターの形成，イノベーション実現，新規創業促進，地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成

連携事業名	**1**	**ＧＸの推進**
事業概要	函館渡島檜山ゼロカーボン北海道推進協議会の開催等を通じて，函館渡島檜山地域における洋上風力発電をはじめとしたＧＸ関連産業の発展や港湾利用の活性化，脱炭素と共に進める地域づくりに繋がる情報の共有，普及啓発，調査研究等の取組みを行う。	
効果	渡島檜山地域における洋上風力発電をはじめとしたＧＸ関連産業の発展や港湾利用の活性化，脱炭素と共に進める地域づくりに繋がる体制が整備される。	

連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	

役割分担		
	函館市	連携市町と調整を行い，事業の実施に取り組む。必要に応じて事業実施に係る費用を負担する。
	連携市町	圏域での事業の実施に連携して取り組む。必要に応じて事業実施に係る費用を負担する。

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	5,000

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	函館渡島檜山ゼロカーボン北海道推進協議会主催事業の実施回数	1回以上/年度 R8(2026)年度	1回以上/年度 R8(2026)年度	1回以上/年度

大分類	ア	圏域全体の経済成長のけん引
中分類	＊	-
小分類	b	産業クラスターの形成，イノベーション実現，新規創業促進，地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成

連携事業名	**2**	**ＧＸ関連人材の育成支援等**
事業概要	GX・AI／洋上風力産業の持続的展開のため，関連する産業および地域・社会に必要とされる人材の育成と確保のための事業を，産業界と北海道大学との共創のもとで行うとともに，オンラインを活用した講義や，現場での実習・演習およびインターンシップなどのカリキュラムを構成し，GX関連産業が必要とする高い汎用的能力を有する次世代人材を育成する。	
効果	圏域におけるGX・AI人材の育成や確保が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●	●	●	●	●	●	●	●	●
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
●	●	●	●	●	●	●	●	

役割分担	函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。
	連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。

事業費（千円）

R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
8,800	8,800	8,800	8,800	8,800	44,000

評価指標（KPI）

指標	基準値	現状値	目標値
GX・AI／洋上風力カリキュラムにおける各コースの受講者	－	－	60人 R13(2031)年度

大分類	ア	圏域全体の経済成長のけん引
中分類	＊	-
小分類	b	産業クラスターの形成，イノベーション実現，新規創業促進，地域の中堅企業等を核とした戦略産業の育成

連携事業名	**3**	**地域におけるデジタル人材の育成**
事業概要	公立はこだて未来大学におけるリカレント・リスキリング教育の実施などにより，デジタル技術の基礎を身につけた人材を育成するとともに，地域課題の解決に貢献する地域デジタル人材を育成する。	
効果	デジタル人材の育成により，圏域におけるデジタル化を推進するために必要なデジタル人材の確保を図る。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●	●	●	●	●	●	●	●	●
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
●	●	●	●	●	●	●	●	

役割分担	函館市	必要な経費を負担し，デジタル人材育成のための講座等を実施する。
	連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。

事業費（千円）

R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
					（未定）

評価指標（KPI）

指標	基準値	現状値	目標値
デジタル人材の育成に係る講座修了認定者数	－	－	30人 R13(2031)年度

大分類	ア	圏域全体の経済成長のけん引
中分類	＊	-
小分類	d	戦略的な観光施策

連携事業名	**4**	**広域観光の推進**							
事業概要	各地域の分散的な魅力を有機的に結び付けた広域観光の推進を図るとともに，圏域の観光コンテンツを磨き上げ圏域一体となったプロモーションの強化に努め，豊かな自然環境の保全，観光客の心身の健康増進に資するプログラムの提供，あらゆる背景を持つ方々が安心して楽しめるユニバーサルな観光環境の整備などに取り組む。								
効果	・圏域の宿泊客延数年間1,000万人泊達成(2033年度) ・滞在価値・消費単価の上昇 ・「未来に選ばれる観光地」としての地位の確立								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	163,360	162,911	162,911	162,911	162,911	815,004

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	圏域の宿泊客延数	5,682千人泊 R7(2025)年度	5,682千人泊 R7(2025)年度	9,000千人泊 R13(2031)年度

大分類	ア	圏域全体の経済成長のけん引
中分類	＊	-
小分類	d	戦略的な観光施策

連携事業名	**5**	**外国人観光客受入体制の整備**							
事業概要	外国人観光客の受入体制充実を図り，交流人口の拡大に努めながら，地域の国際化を推進する。								
効果	外国人観光客受入環境の整備により，交流人口の拡大が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	各市町において，事業に必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	各市町において，事業に必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	25,273	15,153	15,153	15,153	15,153	85,885

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	外国人宿泊客数	63.7万人 R7(2025)年度	63.7万人 R7(2025)年度	80万人 R13(2031)年度

2　高次の都市機能の集積・強化

大分類	イ	高次の都市機能の集積・強化
中分類	＊	-
小分類	a	高度な医療サービスの提供

連携事業名	**6**	**高度で幅広い知識や技術を有する看護師の育成に向けた取組み**							
事業概要	市立函館病院において特定行為研修，看護教育，メディカルシミュレーションセンターの利用など，より高度な知識や技能を有する看護師の育成に向けた取組みを行う。								
効果	より高度な知識や技能を有する看護師の育成が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担	函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。							
	連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。							

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
						（未定）

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	院外からの教育研修受講者およびセンター利用者数	－	－	1名以上/年度

大分類	イ	高次の都市機能の集積・強化
中分類	＊	-
小分類	a	高度な医療サービスの提供

連携事業名	**7**	**看護師の派遣**							
事業概要	市立函館病院による特定行為看護師や認定看護師等の派遣により，技術の伝達や学習会，講演等の取組みを行う。								
効果	技術の伝達や学習会等の取組みにより，地域の看護師の育成などを行うことで地域医療の質の向上を図る。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
						（未定）

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	－	－	－	－

大分類	イ	高次の都市機能の集積・強化
中分類	＊	-
小分類	b	高度な中心拠点の整備・広域的公共交通網の構築

連携事業名		**8**	**函館港における物流拠点の整備**						
事業概要		道南唯一の重要港湾「函館港」における幹線輸送の機能および防災機能強化のためのふ頭整備を行う。							
効果		港湾・道路等の広域的な物流ネットワークの強化により，道南圏域における物資流通および産業経済の拠点としての機能の向上が図られる。							
連携市町		北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
		●	●	●	●	●	●	●	●	●
		長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
		●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担	函館市	事業に必要な経費を負担し，函館港のふ頭整備を実施する。							
	連携市町	必要に応じて函館市と連携して取り組む。							

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
						（未定）

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	－	－	－	－

大分類	イ	高次の都市機能の集積・強化
中分類	＊	-
小分類	c	高等教育・研究開発の環境整備

連携事業名	**9**	**地域を支える人材の育成・確保**
事業概要	キャンパス・コンソーシアム函館を通じて，圏域自治体および高等教育機関との連携を図りながら，高等教育を取り巻く課題や今後のあり方に関する情報共有および協議を行い，圏域における高等教育機能の維持・高等教育へのアクセス確保に取り組む。	
効果	圏域における高等教育機能の維持・高等教育へのアクセス確保を図るとともに，地域の産業や成長分野をけん引する人材の育成・確保につなげる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●	●	●	●	●	●	●	●	●
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
●	●	●	●	●	●	●	●	

役割分担	函館市	必要な経費を負担し，事業に取り組む。
	連携市町	必要に応じて函館市と連携して取り組む。

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	1,530	1,530	1,530	1,530	1,530	7,650

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	高等教育機関との情報共有・協議の実施回数	1回以上/年度 R8(2026)年度	1回以上/年度 R8(2026)年度	1回以上/年度

3　圏域全体の生活関連機能サービスの向上

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名	**10**	**夜間急病センターの運営支援**
事業概要	関係市町が連携し，函館市夜間急病センターに対する運営支援を行う。	
効果	夜間の初期軽症患者に対する医療体制を整えることにより，函館・北斗市民および七飯町民に対して，年間を通じた救急医療の提供が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●					●			
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	

役割分担		
	函館市	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担し，運営の支援を行う。
	連携市町	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担し，運営の支援を行う。

事業費（千円）

R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
98,833	100,601	102,404	102,404	102,404	506,646

評価指標（KPI）

指標	基準値	現状値	目標値
函館市夜間急病センター開設日数	365日 R7(2025)年度	365日 R7(2025)年度	365日 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名		**11**	**ドクターヘリの運航支援**						
事業概要		圏域全体を対象としたドクターヘリの運航支援を行うほか，必要な施設整備を行う。							
効果		ドクターヘリの運航により，救命率が大幅に向上し，圏域全体の広域救急医療体制の充実が図られる。							
連携市町		北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
		●	●	●	●	●	●	●	●	●
		長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
		●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担	函館市	ドクターヘリに係る設備投資負担は函館市が行い，運航に係る経費は全市町で負担する。							
	連携市町	ドクターヘリに係る設備投資負担は函館市が行い，運航に係る経費は全市町で負担する。							

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	73,607	73,607	73,607	73,607	73,607	368,035

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	事前選定冬期間使用可能ランデブーポイントの箇所数	55箇所 R8(2026).4.1	55箇所 R8(2026).4.1	55箇所 R13(2031).4.1

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名	**12**	**二次救急医療体制の維持・確保**
事業概要	関係市町が連携し，圏域で行われる病院群輪番制に参加する医療機関に対する運営支援を行う。	
効果	二次救急医療体制が維持・確保されることで，休日または夜間における入院治療を必要とする救急患者への医療の提供が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●					●			
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	

役割分担	函館市	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担し，運営の支援を行う。
	連携市町	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担し，運営の支援を行う。

事業費（千円）

R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
56,416	56,416	56,416	56,416	56,416	282,080

評価指標（KPI）

指標	基準値	現状値	目標値
診療日数・診療科数	365日,4科 R7(2025)年度	365日,4科 R7(2025)年度	365日,4科 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名	**13**	**脳疾患救急搬送体制の運営支援**
事業概要	脳疾患救急患者の函館市の基幹病院への搬送体制の支援を行う。	
効果	函館市の基幹病院と連携した医療施設を維持することにより，圏域の救急医療体制の向上に寄与する。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●				

役割分担		
	函館市	各市町において，医療機関維持に必要な費用を負担する。
	連携市町	各市町において，医療機関維持に必要な費用を負担する。

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	100,000

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	函館市の受入医療機関の診療日数	365日 R7(2025)年度	365日 R7(2025)年度	365日 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名	**14**	**医療情報共有化の推進**
事業概要	連携市町の医療機関（町立病院等）に情報共有のための設備（サーバー等）を設置し，函館市の基幹病院との間における医療情報の共有を推進する。	
効果	函館市と連携市町の医療機関が患者の医療情報を共有化することにより，個々のケースに即応した治療が可能となり，圏域全体の医療体制の充実が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●			

役割分担	函館市	医療情報共有化を行う市町において必要な費用を負担する。
	連携市町	医療情報共有化を行う市町において必要な費用を負担する。

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	37,172	82,172	82,172	82,172	82,172	365,860

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	利用医療機関数	4病院,5診療所 R7(2025)年度	4病院,5診療所 R7(2025)年度	4病院,5診療所 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名	**15**	**救急救命士病院実習の実施**
事業概要	圏域内の中核病院等において，救急救命士病院実習を実施することにより，救急救命士の技術・能力の維持・向上を図る。	
効果	救急救命士の技術・能力の維持・向上により，圏域の救急医療体制の充実が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●	●	●	●	●	●	●	●	●
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
●	●	●	●	●	●	●	●	

役割分担	
函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。
連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	20,471	20,471	20,471	20,471	20,471	102,355

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	圏域内の救急救命士の有資格者数	344人 R8(2026).4.1	344人 R8(2026).4.1	R13>R8 R13(2031).4.1

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名	**16**	**理学療法士および作業療法士の養成支援**							
事業概要	函館市医師会看護・リハビリテーション学院への運営支援を行うほか，奨学金による学生への支援により，圏域内における理学療法士および作業療法士の養成・確保を図る。								
効果	理学療法士および作業療法士の養成と確保により，圏域の医療体制の充実が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	函館市医師会看護・リハビリテーション学院の運営補助は函館市が行い，事業に参加する市町が奨学金に係る経費を負担する。								
役割分担 連携市町	函館市医師会看護・リハビリテーション学院の運営補助は函館市が行い，事業に参加する市町が奨学金に係る経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	9,620	9,620	9,620	9,620	9,620	48,100

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	卒業生の圏域内における理学療法士・作業療法士としての就職率	理学療法士83.9% 作業療法士84.6% R7(2025)年度	理学療法士83.9% 作業療法士84.6% R7(2025)年度	現状維持 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	a	地域医療

連携事業名	**17**	**医療・介護連携の推進**							
事業概要	医療・介護関係者が円滑に連携するための支援や，多様な職種間の相互理解を深めるための研修等を行う医療・介護連携支援センターを運営し，切れ目のない医療・介護の提供体制の構築を推進する。								
効果	介護保険法施行規則に定める医療・介護連携に係る各種事業を効率的に実施することが可能となり，圏域の医療・介護の提供体制の充実が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●					●			
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
役割分担 函館市	各市町がそれぞれ費用を負担する。								
役割分担 連携市町	各市町がそれぞれ費用を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	39,098	39,098	39,098	39,098	39,098	195,490

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	医療・介護関係者向け研修の開催回数	16回 R7(2025)年度	16回 R7(2025)年度	現状維持 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	c	福祉

連携事業名	**18**	**障害者地域生活支援事業の推進**
事業概要	障害者総合支援法に基づき障がい者の自立と社会参加を促進するため，基幹相談支援センター事業，手話・要約筆記者等派遣事業，地域活動支援センター事業など各種相談・支援事業を社会福祉法人やNPO法人等に委託し実施する。	
効果	地域における相談支援体制をはじめ，障がい福祉サービスの充実が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●					●			
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	

役割分担	函館市	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担する。
	連携市町	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担する。

事業費（千円）

R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
123,878	123,878	123,878	123,878	123,878	619,390

評価指標（KPI）

指標	基準値	現状値	目標値
基幹相談支援センターにおける相談支援人数	1,296人 R7(2025)年度	1,296人 R7(2025)年度	1,300人 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	d	教育・文化・スポーツ

連携事業名		**19**	**文化・スポーツ施設の相互利用の推進**						
事業概要		圏域内の文化・スポーツ施設の相互利用を推進するため，施設の維持・管理等を行うとともに，圏域住民に対して利用案内等の情報を発信する。							
効果		圏域住民の利用拡大が図られる。							
連携市町		北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
		●	●	●	●	●	●	●	●	●
		長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
		●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担	函館市	各市町がそれぞれ費用を負担する。								
	連携市町	各市町がそれぞれ費用を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	2,730,872	2,716,927	2,716,927	2,716,927	2,716,927	13,598,580

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	利用人員	ｽﾎﾟｰﾂ施設 1,462千人， 文化施設 608千人 R7(2025)年度	ｽﾎﾟｰﾂ施設 1,462千人， 文化施設 608千人 R7(2025)年度	R13>R7 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	f	地域振興

連携事業名	**20**	**販路開拓支援**
事業概要	国内外の百貨店や食品スーパー等における物産展やフェア等の開催，函館市アンテナショップの運営等の事業をとおし，圏域内の企業の販路開拓を支援する。	
効果	圏域内の企業の販路開拓を支援することにより，地場産業の育成が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●	●	●	●	●	●	●	●	●
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
●	●	●	●	●	●	●	●	

役割分担	函館市	商談会等の調整および必要な経費を負担する。
	連携市町	必要に応じて商談会情報の周知を行う。

事業費（千円）

R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
13,685	13,685	13,685	13,685	13,685	68,425

評価指標（KPI）

指標	基準値	現状値	目標値
物産展・フェアの開催回数	21回 R7(2025)年度	21回 R7(2025)年度	21回 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	f	地域振興

連携事業名		**21**	**創業支援の推進**						
事業概要		函館市，北斗市および七飯町が相互に連携をとり，（公財）函館地域産業振興財団とともにビジネスプラン作成スクール等の創業支援事業を実施する。							
効果		国や地域の創業支援機関と連携し創業支援を強化することにより，地場産業の育成が図られる。							
連携市町		北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
		●					●			
		長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
役割分担	函館市	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担し，財団と連携して事業を実施する。							
	連携市町	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担し，財団と連携して事業を実施する。							

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	13,337	13,337	13,337	13,337	13,337	66,685

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	創業支援者数	324人 R7(2025)年度	324人 R7(2025)年度	1,620人 R9(2027)年度 ～ R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	A	生活機能の強化に係る政策分野
小分類	f	地域振興

連携事業名	**22**	**先進技術の開発・利用促進および高度技術の普及支援**
事業概要	（公財）函館地域産業振興財団が実施する地域企業の技術の高度化に資する先進技術の研究開発および高度技術の普及等に係る事業を支援する。	
効果	関係市町の企業が先進技術および高度技術を活用することにより，地場産業の育成が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●	●	●	●	●	●	●	●	●
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
●	●	●	●	●	●	●	●	

役割分担	函館市	函館市が経費の一部を負担する。
	連携市町	関係市町は地域企業への利用を促す。

事業費（千円）

R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
130,088	130,088	130,088	130,088	130,088	650,440

評価指標（KPI）

指標	基準値	現状値	目標値
圏域内企業を対象とした個別相談実績	602件 R7(2025)年度	602件 R7(2025)年度	3,010件 R9(2027)年度 ～ R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
小分類	a	地域公共交通

連携事業名	**23**	**第三セクター鉄道への支援**							
事業概要	五稜郭～木古内間における第三セクター鉄道への支援を連携して行う。								
効果	地域公共交通の維持・確保が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●				●				
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
役割分担 函館市	各市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	各市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	62,717	62,717	62,717	62,717	62,717	313,585

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	1日の運行本数（上下計）	31本 R8(2026).4.1	31本 R8(2026).4.1	31本 R13(2031).4.1

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
小分類	a	地域公共交通

連携事業名	**24**	**生活バス路線の維持・確保**							
事業概要	圏域内を結ぶ路線バス等の生活路線の維持・確保を図るため，運行事業者に対する支援等を行う。								
効果	圏域内における路線バス等の利便性向上により，住民が連携市町の病院・商業施設等や函館市の都市機能を広域的に利用することができ，日常生活に必要な交通手段の維持・確保が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	各市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	各市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	375,270	375,270	375,270	375,270	375,270	1,876,350

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	広域交通（路線バス）の年間輸送人員	1,996千人 R7(2025)年度	1,996千人 R7(2025)年度	R13>R7 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
小分類	a	地域公共交通

連携事業名	**25**	**JR函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保**							
事業概要	２０３８年度末頃に予定されている北海道新幹線の札幌開業に伴い，ＪＲ北海道から経営分離される函館本線沿線の地域公共交通の確保等に向けた取組を行う。								
効果	地域公共交通および圏域内相互ネットワークの維持・確保が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●					●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●								
役割分担 函館市	各市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	各市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	457	457	457	457	457	2,285

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	JR北海道から経営分離される函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保に向けた取組の実施	幹事会:2回 ﾌﾞﾛｯｸ会議:1回 R7(2025)年度	幹事会:2回 ﾌﾞﾛｯｸ会議:1回 R7(2025)年度	取組が継続されていること R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
小分類	c	道路等の交通インフラの整備・維持

連携事業名	**26**	**交通インフラの整備に係る期成会活動の促進**							
事業概要	圏域内における基幹道路の整備や北海道新幹線の建設等，交通インフラの整備促進を図るため，交通インフラ関係期成会の活動を推進する。								
効果	交通インフラ関係期成会の活動を通じて，圏域内の交通インフラ等の整備促進が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	各市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	各市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	12,343	12,343	12,343	12,343	12,343	61,715

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	道路整備期成会および北海道新幹線建設促進期成会の要望活動回数	6回 R7(2025)年度	6回 R7(2025)年度	取組が継続されていること R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
小分類	e	地域内外の住民との交流・移住促進

連携事業名	**27**	**国際交流・多文化共生の推進**							
事業概要	地域住民との国際交流事業や，外国人住民が地域社会に溶け込み，より快適な生活を営むことができるよう各種の事業等を実施する。								
効果	外国人住民の支援や受入を活発化することにより，地域住民との交流が図られ，地域の国際化や多文化共生が推進される。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	21,877	21,877	21,877	21,877	21,877	109,385

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	外国人住民と市民との交流行事等への参加人数	341人 R7(2025)年度	341人 R7(2025)年度	R13>R7 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
小分類	e	地域内外の住民との交流・移住促進

連携事業名	**28**	**移住・定住の促進**							
事業概要	移住，定住，二地域居住に関する各種プロモーション等の取組みを連携して行い，圏域全体の移住や定住の促進を図る。								
効果	圏域全体の移住や定住の促進が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								
役割分担 連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
						（未定）

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	移住相談件数（渡島地域および檜山地域）	971件 R6(2024)年度	971件 R6(2024)年度	R13>R6 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	B	結びつきやネットワークの強化に係る政策分野
小分類	f	ａからｅまでに掲げるもののほか，結びつきやネットワークの強化に係る連携

連携事業名		**29**	**消費生活相談の広域的対応**						
事業概要		函館市消費生活センターにおいて，函館市および関係市町住民の相談対応やあっせん処理を実施する。							
効果		相談対応やあっせん処理を実施するとともに，消費者被害の未然防止のための情報提供を行い，圏域住民の消費生活の安定および向上が図られる。							
連携市町		北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
		●	●	●	●	●	●	●	●	●
		長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
		●								
役割分担	函館市	渡島管内の市町が経費の一部を負担し，運営の支援を行う。							
	連携市町	渡島管内の市町が経費の一部を負担し，運営の支援を行う。							

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	16,821	16,821	16,821	16,821	16,821	84,105

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	函館市消費生活センターにおけるあっせん解決率	94.6% R7(2025)年度	94.6% R7(2025)年度	現状維持 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	C	資源制約に対応するための圏域マネジメント等に係る政策分野
小分類	c	圏域内市町村の職員等の交流

連携事業名	**30**	**職員研修に係る情報共有および合同研修の実施**							
事業概要	圏域全体で職員研修に係る情報を共有するとともに，圏域市町職員の資質向上を図るための合同研修を実施する。								
効果	圏域市町職員の資質向上に資する機会の増大が図られる。								
連携市町	北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担 函館市	函館市が研修にかかる情報を発信する。								
役割分担 連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。								

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	1,280	1,280	1,280	1,280	1,280	6,400

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	合同研修参加自治体数	15自治体 R7(2025)年度	15自治体 R7(2025)年度	18自治体 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	C	資源制約に対応するための圏域マネジメント等に係る政策分野
小分類	c	圏域内市町村の職員等の交流

連携事業名	**31**	**高等教育機関との連携による地域マネジメント能力の向上**
事業概要	地域の市町の職員や住民等の参加のもと，函館市に所在する高等教育機関との連携による地域課題解決に向けた取り組みを実施することで，職員の地域マネジメント能力の向上を図る。	
効果	圏域市町職員等の視野と知見を広げ，資質向上に資する機会の増大が図られる。	

連携市町

北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
●							●	
長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
	●							

役割分担	函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。
	連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
	1,179	1,179	1,179	1,179	1,179	5,895

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	各プログラムにおける地域職員等の平均参加者数	5人 R7(2025)年度	5人 R7(2025)年度	R13>R7 R13(2031)年度

大分類	ウ	圏域全体の生活関連機能サービスの向上
中分類	C	資源制約に対応するための圏域マネジメント等に係る政策分野
小分類	e	人材をはじめとする資源を効率的に活用するために必要な事務の共同実施

連携事業名		**32**	**AI・DXの推進等による行政運営の効率化**						
事業概要		標準準拠システム等を活用したデータ連携による効率的な行政運営のあり方についての検討や，デジタルツールの共同利用，電子決済等の住民向けデジタルサービスの向上を図る。							
効果		行政事務の効率化および住民向けデジタルサービスの向上が図られる。							
連携市町		北斗市	松前町	福島町	知内町	木古内町	七飯町	鹿部町	森町	八雲町
		●	●	●	●	●	●	●	●	●
		長万部町	江差町	上ノ国町	厚沢部町	乙部町	奥尻町	今金町	せたな町	
		●	●	●	●	●	●	●	●	
役割分担	函館市	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。							
	連携市町	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。							

事業費（千円）	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)	合計
						（未定）

評価指標（KPI）	指標	基準値	現状値	目標値
	－	－	－	－

南北海道連携中枢都市圏ビジョン懇談会 委員名簿

（敬称略）

関連分野	所　属	役　職	氏　名	市町名
学識 経験者	国立大学法人　北海道大学 大学院水産科学研究院	教授	都木　靖彰	函館市
医療・福祉	公益社団法人　函館市医師会	事務局長	能登谷　剛	函館市
産業・経済	函館商工会議所	事務局長	竹内　正幸	函館市
地域公共 交通	函館地区バス協会	事務局長	渡部　十月哉	函館市
交流・移住	国立大学法人　北海道教育大学 函館校	教授	孔　麗	函館市
産業・経済	知内商工会	事務局長	松崎　光一	知内町
産業・経済	木古内商工会	事務局長	藤田　満	木古内町
産業・経済	八雲商工会	事務局長	成田　耕治	八雲町
産業・経済	長万部商工会	会長	赤塚　顕爾	長万部町
産業・経済	厚沢部商工会	事務局長	中村　正二	厚沢部町
ICT・ デジタル	北海道フーズプランニング 株式会社	代表取締役	笹谷　隆	乙部町
産業・経済	奥尻観光ガイドサービス	代表	井口　和広	奥尻町

南北海道連携中枢都市圏ビジョン

南北海道連携中枢都市圏ビジョン懇談会
（事務局：函館市企画部国際・地域交流課）